教育理念

上尾中央医科グループが掲げる「愛し愛される」を基本理念とし、地域の人々が人として豊かに暮らすために、生命と健康を守るための知識・技術・温かな心を有した、地域で活躍する看護師の育成と看護の発展をめざす。

上尾中央医科グループの理念「愛し愛される」や本校創設の中村秀夫会長、中村康彦理事長による建学の考え方として、「人として豊かに暮らすために『生命と健康』は第一に守らなければならない。皆様との温かいコミュニケーションを大切に、信頼関係を築きながら毎日の皆様の健康をサポートする」とある。
よって臨床での実践を意識し、地域の皆様に信頼される看護師の育成を理念とした。

教育目的

看護専門職業人として必要な幅広い教養と豊かな人間性を涵養し、看護の実践に関する基礎的な知識・技術を教授する。

また、信頼関係を築きあげながら、地域の人々の健康と生活の質向上を目指して地域医療を支える看護師を育成することを目的とする。

豊かな人間性、社会性を養ってほしいという願いがあり、それは、ゆっくりだけれどその人の中に染み込み看護を実践する基になってもらいたい。その根底を持ち、地域の人々の健康と生活を支える看護師を育成して行くことを目的とした。

主要概念

人間	①人間は、身体的・精神的・社会的な側面をもち統合された存在として生活を営んでいる。 ②人間には、尊厳があり唯一無二の存在である。 ③人間は、成長発達する存在である。 ④人間は、自己実現を目指し自分らしく生きたい普遍的なニードを持っている。 ⑤人間は、健康に生きるという基本的な権利を有している。 ⑥人間は、内部環境の向上性を保持する力や、自然治癒力を有し、健康を維持している。 ⑦人間は、環境と相互作用をし、影響し合っている。
健康	①健康は、身体的にも、精神的にも、そして社会的にもその人にとって満たされた状態にあり、機能を十分発揮している状態である。 ②健康のあり様は、流動的かつ連続的である。 ③健康は、文化的社会的背景により変化し、個人の価値観に基づいて自らが創りだしていくものである。 ④健康は、人間の基本的権利であり、生活の基盤である。 ⑤自己の健康について責任と決定権を持つのはその人自身である。
環境	①環境は、自然環境・社会環境を指し、人間を取り巻くすべてである。 ②環境は、人間の健康と生活に関与すものである。 ③ホメオスタシスの失調は、健康障害につながる。 ④環境は、人間と連続的に相互に関係しあっている。
看護	①看護の対象は、個人及び家族・集団であり、ライフサイクルの様々な健康段階にある人々である。 ②看護は、生命と健康の維持増進・回復・安寧な死に向けて、科学的根拠に基づき、その人らしく豊かに暮らすことができるよう計画的に取り組まれる実践活動である。 ③看護は、地域包括ケアシステムの中でチーム医療を実践するために、看護専門職としての独自の機能を担う。 ④看護は、より良い看護を目指すために多角的に評価し、発展させていく機能を有している。
教育	①教育は、可能性を持つ人間を成長させる社会的機能である。 ②教育の目的は、自己教育力を育てることであり、教育の主体は学習者である。 ③教育は、個人の成長・発達の潜在能力を最大限引き出せるように、学習環境を整えることである。 ④学習者と教育者は、相互に影響し合いながら成長する関係である。

教育目標・卒業までに身につけるべき資質・能力（ディプロマ・ポリシー）

教育目標	卒業までに身につける資質・能力（DP）
1．対象に関心を寄せ、唯一無二の存在として尊重する人間性を養う	①人間を唯一無二の存在として尊重し、どのような時も共感的態度を持ち、対象者のそばに寄り添うことができる。
2．人間を深く理解し、対象を生活者として捉える力を養う （その人らしさ、価値を知る）	①人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する。 ②人間は、普遍的ニードを持つ個別的・自立的な存在であり、生涯にわたって成長・発達する生活者であると捉えることができる。
3．健康の状態や変化を理解し、対象のより健康な生活を支援する看護実践力を養う	①対象を生活者としてとらえ、健康の維持増進と健康の回復、安寧な死を迎える看護を実践することができる。 ②個人、家族、集団、地域の多様な価値を多角的に知り、人々の多様な健康のあり様を理解することができる。 ③健康上の課題や状態を明確化し、問題を解決するために、必要な情報を自ら系統的に収集・分析し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
4．保健医療福祉システムの中で、多職種の専門性を認め合い、協働する力を養う	①対象やその関係者、保健・医療・福祉・の専門職者を尊重し、責任を持って看護実践できるための態度・倫理観を有した行動をとることができる。 ②保健・医療・福祉のチームの一員として看護の役割を発揮するために必要なコミュニケーション技術を修得することができる。 ③地域包括ケアシステムの中で対象やその関係者、保健・医療・福祉の専門職と連携・協働し、課題解決に取り組み、解決に導くための方向性を提案することができる。
5．看護師として学び続ける姿勢をもち、看護を探求する力を養う	①社会の動向に関心をもち、多面的な視点から捉え、看護の課題を探究し、知識や技術の向上に取り組むことができる。 ②看護師として社会に貢献することに価値を見出す。

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

理念および教育目標に賛同し、学力に偏ることなく、一人ひとりの特色のある考え方や人間性、広く看護の場で活躍したいと願う積極性や学校生活や社会生活における活動などを総合的に勘案し、妥当かつ公平な方法によって選抜する。

1.人に対する関心や思いやりをもつことができ協働できる人
2.人の悩みや苦しみ、状況を感じ、人と人との関わりを大切にできる人
3.看護を学ぶための基礎知識やコミュニケーション能力及び態度を持つ人
4.科学的な探究心があり、自己の課題を解決しようとする人
5.自分の健康管理ができて、命を大切にできる人
6.社会や学校のルールを守り、慎重に行動できる人

本校で看護学を学ぶために身に付けておくべき科目

1.文章の読解力と自分の意見や思いを筋道立てて考える力を養う科目
2.社会への関心とコミュニケーション手段としての言語力を養う科目
3.生命現象を理解する上で必要となる自然科学の基礎的知識を養う科目

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 年次から 3 年次までの期間で、段階的に知識や技術を積み上げて修得できるように構成し、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」から構成されている。

カリキュラム構築の考え方は、次のとおりである。

1.学生が卒業時に修得すべき能力を明確にする。

2. 「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」を関連付けて、3 年間を通して展開する。

・看護師としての責任、倫理をはじめ、看護の概念・理論や看護学の基盤となる知識ならびに基礎看護技術の修得することを目指す。

3.様々な問題や課題を考え、探求し、解決していくために必要な教育を充実する。

4.知識や技術を看護実践に適用できる力を養うため、講義、演習、および実習を効果的に組み合わせる。

・看護の対象となる人間の本質や生命の尊厳について考え、ライフサイクルや人間の成長・発達理解を深め、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観の理解を深めることを目指す。

・看護の対象をライフステージ別に捉え、各対象の身体的・精神的・社会的特性や共通性と個別性を考慮したうえで、健康回復への援助や治療の困難な人への援助を提供するために必要な知識と看護実践能力を修得することを目指す。

5.チーム医療の実践力を養うために多職種連携教育を充実する。

・保健・医療・福祉などのあらゆる場において、地域での生活を見据えるための基盤となる知識を修得することを目指す。

・地域包括ケアシステムの中で対象やその関係者、保健・医療・福祉の専門職と連携・協働し、解決に導くための方向性を提案することができるコミュニケーション能力の育成を目指す。

6.地域におけるケアの志向性と看護実践能力を養うための科目を設定する。

・その人間の生活の場である社会への理解を深めることを目指す。

・国際色豊かな教養や看護師として求められる豊かな人間性を磨くため、また、様々な職種との連携において看護師としての役割を果たすための力の形成を目指す。

・看護を取り巻く環境や、集団、地域社会について理解を深め、超高齢社会に対応するために、地域包括ケアシステムを理解し、看護に必要な知識と看護実践能力を修得することを目指す。

7.防災の意識を高め、災害時の支援行動がとれるよう防災教育や災害看護に関する科目を設定する。

8.実践の場に即した学びのために、ICT 教育、アクティブラーニングを基本とした多様な学習機会を提供する。

・看護に必要な膨大な知識の効率的な学習や就職後の活用を見据えた学習の蓄積を目指す。

9.学習者の主体的な学びを推進し、知識・技術・態度を総合的に評価する。

学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、卒業までに身につける資質・能力（ディプロマ・ポリシー）に基づき、学校レベル、教育課程レベル、科目レベルの段階で学修成果を把握し評価、改善活動へ活用する。

1. 学校レベル

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づいて入学した学生が卒業までに身につけるべき資質・能力を満たし、社会に貢献する人材に成長しているかを評価し、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、卒業までに身につけるべき資質・能力（ディプロマ・ポリシー）の見直しと教育の質保証に役立てる。

2. 教育課程レベル

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、卒業までに身につけるべき資質・能力（ディプロマ・ポリシー）に基づく教育課程で編成された学習成果を上げているか、卒業までに身につけるべき資質・能力（ディプロマ・ポリシー）を満たす人材にどれだけ近づいているかを評価し、カリキュラム改善・学習支援に役立てる。

3. 科目レベル

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、卒業までに身につけるべき資質・能力（ディプロマ・ポリシー）に基づく学修内容であり、学習到達を科目ごとに評価し、授業改善・学習支援に役立てる。

成績評価

令和 4 年度入学生から 5 段階の成績評価と GPA（Grade Point Average）制度を導入する。
学生ひとり一人が、自からの履修管理に責任を持ち、主体的、意欲的に学習することを目的としている。

すなわち、GPA 評価は、成績評価指標の一つであり、成績評価基準を明確にし、教育の質の保証（学修のアウトカム評価）を図ることに有効な指針とされている。学生は学修状況をセルフチェックし、学習計画の立案、進路選択に活用していく。

学則に基づき、授業の評価を 5 段階評価とし、S・A・B・C・D ごとに評価の範囲を定める。

1）成績評価と GPA（Grade Point Average）
4～0 点までの GP（Grade Point）に換算する。

<table>
<tr><th colspan="2">評価</th><th>評点</th><th colspan="2">Grade Point</th><th>学籍簿記載あり</th></tr>
<tr><td rowspan="4">合格</td><td>S</td><td>90 点以上</td><td rowspan="6">総単位数
として
分母の
計算基礎</td><td>4.0</td><td>あり</td></tr>
<tr><td>A</td><td>80 点以上 90 点未満</td><td>3.0</td><td>あり</td></tr>
<tr><td>B</td><td>70 点以上 80 点未満</td><td>2.0</td><td>あり</td></tr>
<tr><td>C</td><td>60 点以上 70 点未満</td><td>1.0</td><td>あり</td></tr>
<tr><td>再試修得</td><td>C▽</td><td>再試・再履修にて単位修得</td><td>0</td><td>あり</td></tr>
<tr><td>不合格
（未修得）</td><td>D</td><td>60 点未満</td><td>0</td><td>あり</td></tr>
</table>

構造図

看護の統合と実践
精神看護学
老年看護学
成人看護学
小児看護学
地域・在宅看護論
基礎看護学
母性看護学
専門分野
専門基礎分野
基礎分野

別表1

第一学科　学科目及び単位数

区分	項目	授業科目	単位数	時間数	1学年				2学年				3学年			
					前期		後期		前期		後期		前期		後期	
					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	1	30										
		情報科学	1	15	1	15										
		英語	1	30			1	30								
		文学	1	15					1	15						
		ヒューマンケア論	1	15									1	15		
		1年次セミナー（アカデミックリテラシー）	1	30	1	30										
		2年次セミナー（アカデミックリテラシー）	1	30					1	30						
		3年次セミナー（アカデミックリテラシー）	1	30									1	30		
		小計	8	195	3	75	1	30	2	45	0	0	2	45	0	0
	人間と生活・社会の理解	生物学	1	15	1	15										
		心理学	1	15	1	15										
		発達とライフステージ	1	30	1	30										
		人間関係論	1	30	1	30										
		文化人類学	1	15			1	15								
		教育学	1	30			1	30								
		健康スポーツ学	1	30			1	30								
		小計	7	165	4	90	3	75	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		15	360	7	165	4	105	2	45	0	0	2	45	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成立ちと回復の促進	人体の発生	1	15	1	15										
		人体のメカニズムⅠ（呼吸器・循環器・血液）	1	30	1	30										
		人体のメカニズムⅡ（消化器）	1	30	1	30										
		人体のメカニズムⅢ（代謝・腎・泌尿器・内分泌・自律神経）	1	30	1	30										
		人体のメカニズムⅣ（脳神経・感覚器・生殖器・運動器）	1	30			1	30								
		感染予防	1	15			1	15								
		病理学	1	15			1	15								
		治療論	1	15			1	15								
		疾病と治療Ⅰ（呼吸器・循環器）	1	30			1	30								
		疾病と治療Ⅱ（消化器・内分泌）	1	30			1	30								
		疾病と治療Ⅲ（脳神経・運動器）	1	30			1	30								
		疾病と治療Ⅳ（血液・腎・泌尿器・生殖器・免疫）	1	30			1	30								
		疾病と治療Ⅴ（精神病態）	1	15					1	15						
		疾病と治療Ⅵ（小児に特有な病態）	1	30					1	30						
		看護に必要な薬理学	1	30					1	30						
		看護に必要な栄養学	1	30					1	30						
		小計	16	405	4	105	8	195	4	105	0	0	0	0	0	0
	健康支援と社会保障制度	現代社会と家族	1	15			1	15								
		健康と生活	1	15	1	15										
		看護に関係する法と制度	1	15			1	15								
		社会福祉と社会保障システム	1	30					1	30						
		公衆衛生	1	30									1	30		
		医療倫理	1	15	1	15										
		小計	6	120	2	30	2	30	1	30	0	0	1	30	0	0
	合計		22	525	6	135	10	225	5	135	0	0	1	30	0	0
専門分野	基礎看護学	看護学概論（ようこそ看護の世界へ）	1	30	1	30										
		生活援助論Ⅰ（感染予防・環境・活動と休息・食事）	1	30	1	30										
		生活援助論Ⅱ（清潔・排泄）	1	30	1	30										
		生活援助技術演習Ⅰ（感染予防・環境・食事）	1	30	1	30										
		生活援助技術演習Ⅱ（活動と休息・排泄）	1	30	1	30										
		生活援助技術演習Ⅲ（清潔）	1	30	1	30										
		フィジカルアセスメント	1	30	1	30										
		フィジカルアセスメント演習	1	30	1	30										
		診療の補助技術論（検査・与薬・救急救命処置）	1	30			1	30								
		診療の補助技術演習（検査・与薬・救急救命処置）	1	15			1	15								
		看護の理論と実践（看護過程の基礎）	1	30			1	30								
		小計	11	315	8	240	3	75	0	0	0	0	0	0	0	0
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論Ⅰ（健康・地域・暮らし）	1	30	1	30										
		地域・在宅看護論Ⅱ（概論）	1	30			1	30								
		地域・在宅看護論Ⅲ（日常生活援助技術・マナー）	1	15					1	15						
		地域・在宅看護論Ⅳ（在宅における医療ケア・看護技術）	1	30					1	30						
		地域・在宅看護論Ⅴ（家族の看護）	1	15									1	15		
		地域・在宅看護論Ⅵ（療養を支える多職種連携）	1	30									1	30		
		小計	6	150	1	30	1	30	2	45	0	0	2	45	0	0
	成人看護学	成人看護学Ⅰ（概論）	1	30			1	30								
		成人看護学Ⅱ（セルフマネジメント）	1	30					1	30						
		成人看護学Ⅲ（健康危機状況・周手術期看護）	1	30					1	30						
		成人看護学Ⅳ（セルフケアの再獲得・リハビリテーション看護）	1	30					1	30						
		成人看護学Ⅴ（終末期看護・緩和ケア）	1	15							1	15				
		成人看護学Ⅵ（事例を用いた看護）	1	15							1	15				
		小計	6	150	0	0	1	30	3	90	2	30	0	0	0	0
	老年看護学	老年看護学Ⅰ（概論）	1	30			1	30								
		老年看護学Ⅱ（事例を用いた看護）	1	30					1	30						
		老年看護学Ⅲ（高齢者の生活を支える看護）	1	30					1	30						
		老年看護学Ⅳ（治療を受ける高齢者の看護）	1	15							1	15				
		小計	4	105	0	0	1	30	2	60	1	15	0	0	0	0
	小児看護学	小児看護学Ⅰ（概論）	1	30			1	30								
		小児看護学Ⅱ（子どもの症状・状況に応じた看護）	1	15			1	15								
		小児看護学Ⅲ（病気の子どもの看護）	1	30					1	30						
		小児看護学Ⅳ（多職種連携と倫理的課題）	1	15							1	15				
		小計	4	90	0	0	2	45	1	30	1	15	0	0	0	0
	母性看護学	母性看護学Ⅰ（概論）	1	30			1	30								
		母性看護学Ⅱ（妊娠期・分娩期の看護）	1	30					1	30						
		母性看護学Ⅲ（産褥期・新生児期の看護）	1	30					1	30						
		母性看護学Ⅳ（事例を用いた看護）	1	15							1	15				
		小計	4	105	0	0	1	30	2	60	1	15	0	0	0	0
	精神看護学	精神看護学Ⅰ（概論）	1	15			1	15								
		精神看護学Ⅱ（精神障害者の理解）	1	30					1	30						
		精神看護学Ⅲ（治療・事例を用いた看護）	1	30					1	30						
		精神看護学Ⅳ（嗜好と依存の看護）	1	15							1	15				
		小計	4	90	0	0	1	15	2	60	1	15	0	0	0	0
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ（医療安全）	1	30					1	30						
		看護の統合と実践Ⅱ（災害看護・医療安全・国際看護）	1	30									1	30		
		看護の統合と実践Ⅲ（看護管理）	1	15											1	15
		看護の統合と実践Ⅳ（看護の探求）	1	30											1	30
		看護の統合と実践Ⅴ（医療安全・看護の力を積み重ねる）	1	30											1	30
		看護の統合と実践Ⅵ（看護の力を積み重ねる）	1	30											1	30
		小計	6	165	0	0	0	0	1	30	0	0	1	30	4	105
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	40			1	40								
		基礎看護学実習Ⅱ	2	80					2	80						
		地域・在宅看護実習Ⅰ	2	70							2	70				
		地域・在宅看護実習Ⅱ	2	70									2	70		
		急性期看護実習	2	80									2	80		
		地域・多職種連携実習	2	80											2	80
		回復期看護実習	2	80									2	80		
		慢性期看護実習	2	80											2	80
		小児看護学実習	2	70							2	70				
		母性看護学実習	2	70							2	70				
		精神看護学実習	2	80									2	80		
		看護の統合と実践実習（はばたけ看護の世界へ）	2	80											2	80
		小計	23	880	0	0	1	40	2	80	6	210	8	310	6	240
	合計		68	2050	9	270	11	295	15	455	12	300	11	385	10	345
各年次単位・時間					47 単位		1195 時間		34 単位		935 時間		24 単位		805 時間	
総合計単位・時間					105 単位						2935 時間					

卒業に必要な総授業時（単位）数	105	2935	47 単位	1195 時間	34 単位	935 時間	24 単位	805 時間

1．基　礎　分　野

人口減少、生産年齢の減少、出生数の減少、老年人口の割合の増加によって医療、介護を取り巻く社会が大きく変化している。社会全体が地域主体となって健康問題に取り組んでいく。

そこに住む人々の文化的背景、価値観にしっかり向き合いその人の生命と生活をどのように支えていくのが良いのか考える力が専門職である看護師に不可欠である。画一的ではなく柔軟で創造豊かな人材を育成していくことが大切であると考える。

地域で暮らす人々は、発達段階も健康状態も様々である。また、温暖化による気象異常や震災などの災害時に生活や生命を守るには多職種連携が必至である。

地域社会で貢献できる人材を育成していくために、他者の成長を助けること、深い関心をもって他者と対峙して対象者に寄り添い、支えるヒューマンケアの実践者を育成していくことが必要である。

自己を知り、キャリアイメージしていくために自ら考え、判断・行動することを強く意識して柔軟に対応できるたくましい力を育成していきたいという願いで科目設定した。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	論理学	1年次	1単位 30時間	外部講師

目的	本授業の目的は受講者が医療現場の専門家として備えるべき思考、情報整理、および情報提示の方法の土台を獲得することである。そのために本授業では専門知の獲得方法、学術論文の読み方と信頼のおける文章の書き方といったリテラシーに関する指導・トレーニングと臨床的実践者としての推論と議論の方法と作法をレクチャーする。
目標	1.論理展開の明確な文章が作成できるための、思考や文章表現に必要な知識・用法を身につける。 2.医療専門家たる看護師にとって不可欠である臨床的な推論および議論の方法・作法を身につける。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			Introduction：論理学とアカデミックリテラシー：専門家としての知とは何か	講義
2			テキストを批判的に読解するには：学習と探究の違い	演習・講義
3			知的生産の為のライティング／リーディングに向けて：論文を読んでみる	演習・講義
4			専門的文章とはどのように読めばよいのか：論文を整理してみる	演習・講義
5			知的生産者として文章を書く：レポートの作り方と書き方	講義
6			どのように情報を集めてまとめるか：問題に答えるための情報収集	講義
7			議論とは何か：『12人の怒れる男』から議論を学ぶ①	講義
8			議論とは何か：『12人の怒れる男』から議論を学ぶ②	講義
9			対話から新たな考えを生み出すために：質問の方法と目的	講義
10			議論してみる：ここまでの授業を振り返って自分の意見を検討する	演習
11			論理と推論①：論理の基礎知識	講義
12			論理と推論②：インフォーマル・ロジックとしての臨床推論へ	講義
13			生きられた経験の記述とリフレクション：実践を読み解く	講義
14			臨床推論の実践：実践場面についてテクストを読み解く	演習
15			単位認定試験 まとめ：専門的実践家にとって論理は何の役に立つのか	筆記試験 講義

予習・復習	第10回授業にてレポートの構想について対話を行うため、6回授業までの内容を扱った後、レポート作成の準備を開始すること。また筆記試験は11回以降の内容から出題する。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
・教科書指定は無いが、以下のテキストを参考とする。 河野哲也、『問う方法・考える方法　「探求型の学習」のために』、ちくまプリマー新書、2021年。 倉田剛、『論証の教室〔入門編〕　インフォーマル・ロジックへの誘い』、新曜社、2022年。 道又元裕、『看護学生のための臨床判断に必要な臨床推論』、ヴェクソンインターナショナル、2023年。	■筆記試験（ 40 %）　■レポート（ 60 %） □実技試験（ %）　□授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	情報科学	1年次	1単位 15時間	外部講師

目的	高度の情報社会や医療現場の情報機器に対応できる基本的知識と情報機器の操作を習得し、情報社会との関係を理解する。
目標	1.情報の科学的な捉え方と効果的な活用方法を理解する。 2.データの処理方法と活用方法を学ぶ。 3.情報機器およびソフトの活用を理解し、実際に操作できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			Introduction 授業についての説明、情報処理室の環境説明、セキュリティの説明 コンピュータ使用法　看護における情報、文書作成の基礎	講義・演習 合同(講堂)
2			医療と情報 医療情報の扱い方・プライバシーの保護、プライバシーと倫理問題の説明 インターネットを活用した情報収集と注意点	講義・演習 合同(講堂)
3			情報機器について コンピュータの基礎知識・マイクロソフトについて・タブレット端末の操作方法	講義・演習 (情報処理室)
4			情報の記録① 医療・看護における情報の記録の重要性、文書作成演習（Word）	講義・演習 (情報処理室)
5			情報の記録② 医療・看護における基本的なコンピュータ技能、データの記録・表作成（Excel）	講義・演習 (情報処理室)
6			情報の整理① 情報の整理における基礎、情報を整理する手段としての計算演習（Excel）	講義・演習 (情報処理室)
7			情報の整理② 情報の整理・分析　情報統計の基本、統計の実践（Excel）	講義・演習 (情報処理室)
8			情報の伝達と講義のまとめ プレゼンテーション（PowerPointの利用）と講義全体のまとめ	講義・演習 (情報処理室)

予習・復習	

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
テキストは使用しない。適宜資料を配布。	□筆記試験（　　%）　■レポート（　100 %） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	英語	1年次	1単位 30時間	外部講師

目的	外国人患者が安心して医療を受けることができるように、医療の専門用語・表現方法を理解する。
目標	1. 基礎的な英文読解力を身につける。 2. 語彙・文法・会話表現などの英語の知識を習得する。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			Self-introduction・Basic grammar quiz・Unit 1（Please speak slowly.）①	講義・リスニング・実演練習
2			Unit 1（Please speak slowly.）②・Unit 2（Where are you from?）	講義・リスニング・実演練習
3			Unit 3（Could you tell me your address, please?）	講義・リスニング・実演練習
4			Unit 4（What department do you want to visit?）	講義・リスニング・実演練習
5			Unit 5（Where is the X-ray department?）	講義・リスニング・実演練習
6			Unit 6（What are your symptoms?）	講義・リスニング・実演練習
7			Unit 7（Where does it hurt?）	講義・リスニング・実演練習
8			Mid-term exam・Unit 8（Have you ever had any serious illnesses?）	講義・リスニング・実演練習
9			Unit 9（Take one tablet, four times a day.）	講義・リスニング・実演練習
10			Unit 10（Let me make an appointment for your test.）①	講義・リスニング・実演練習
11			Unit 10（Let me make an appointment for your test.）②	講義・リスニング・実演練習
12			Unit 11（Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.）①	講義・リスニング・実演練習
13			Unit 11（Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.）②	講義・リスニング・実演練習
14			Unit 12（How are you feeling today?）	講義・リスニング・実演練習
15			Final exam Class wrap-up	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：会話表現を中心に、講義内容を復習する。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
クリスティーンのやさしい看護英会話（医学書院）	■筆記試験（ 70%） ■レポート（ 30 %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	文学	2年次	1単位 15時間	外部講師

目的	ことばは人間のみが持つ資質であり、そのおかげで文学作品を生み出すなどの活動が可能となる。専門領域への導入となる知識や思考法を涵養する。
目標	1.文学作品を通して、登場する人間の生き方や考えを学び、豊かな感性、理知的な視点が構築される。 2.現代を生きる人間として問題意識を高め、幅広い視野と表現力を養う。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			テーマを把握する	講義
2			登場人物の行為や考え方に共感を覚えたり、批判したりできる	講義
3			自分の感想や見解をわかりやすく説明できる	講義
4			自分の感想や見解をわかりやすく文章にまとめる	講義
5			他人の意見を聞き、言わんとするところを理解する	講義
6			様々な文学作品に触れる①	講義
7			様々な文学作品に触れる②	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
テキストは使用しない。適宜資料を配布。	■筆記試験（ 40%） ■レポート（ 60%） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	ヒューマンケア論	3年次	1単位 15時間	外部講師

目的	看護学の目的は「より良い看護実践に寄与すること」である。しかし、そもそも「良い看護」とは何かを問うことなしに、「より良い看護」を実践することは不可能である。ヒューマンケアは、科学的な看護を超えた、道徳的な次元での人間的な出会い、そして応答的関係を必要とする。本授業は、「人間をケアする」という営みについて、その前提から問い直すことを通して、その奥行きや深さを理解し、自らの看護観を深めていく。
目標	1.ヒューマンケアに関わる、現在までの哲学的知見を理解する。 2.自分の考える「良い看護」を内省的に捉え直し、より深い看護観を獲得する。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			はじめに：現象学からみるケアリング	講義
2			ケアにおける「説明 / 理解」	講義
3			ケアにおける「共感」	講義
4			「世界と接する身体」の声を聴く	講義
5			事例検討と対話実践①	講義
6			事例検討と対話実践②	講義
7			VP（美徳プロジェクト）ワークショップ	講義
8			まとめ	講義

予習・復習	予習：これまでの実習での経験を言葉化できるようにしておく。 復習：授業で議論した内容を自分なりに整理し、ノートにまとめておく。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
講義の内容は、基本的にパワーポイントの資料を使用します。 皆さんの学びの深度に応じて講義内容が前後する場合があります。	□筆記試験（　　%）　■レポート（ 100 %） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	哲学は受け身で知識を得るものではありません。講義とは別に、事例を通じた履修者全員による「哲学対話」および「美徳プロジェクト・ワークショップ」を行います。授業内での積極的な発言を求めます。
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎	1年次セミナー （アカデミックリテラシー）	１年次	1単位 30時間	外部講師 専任教員

目的	看護学生に求められる心構えやスキルを身につける。
目標	1.看護専門学校で学ぶうえでのスキルを身につける重要性を知る①知識・理解（多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解）②汎用的技術（コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力）③態度・志向性（自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力） 2.学問の重要性を理解し、規則正しく計画的に学習する習慣を身につける

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			Introduction マイポートフォリオをつくろう。ビジョンゴール・社会人基礎力とは 技術習得にむけてチューター制度について	講義
2			スチューデントスキル 看護学校で何を学ぶのか。3年後の自己のイメージを明確にする。	講義
3			スチューデントスキル 対人関係について考える	講義
4			スタディスキル 看護技術習得に向けて①	講義
5			スタディスキル 看護技術習得に向けて②　技術習得のビジョン・ゴールを考える	講義
6			スチューデントスキル 看護学生としての身だしなみ	講義
7			スタディスキル 効果的な学習方法①	講義
8			スタディスキル ビジョン・ゴール（学校生活・看護技術）中間評価	講義
9			スチューデントスキル 看護学生としての社会人基礎力中間評価（認知行動）	講義
10			スチューデントスキル 実習とは～倫理的行動がとれる姿勢～　（実習前）	講義
11			スタディスキル 実習に向けての準備①基礎Ｉ実習に向けて	講義
12			スタディスキル 実習に向けての準備②基礎Ｉ実習に向けて	講義
13			スタディスキル 効果的な学習方法②	講義
14			スタディスキル 効果的な学習方法③	講義
15			1年間の振り返り　ビジョンゴール・社会人基礎力評価	講義

予習・復習	作成したものは各自のポートフォリオに保管して、常に意識する。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
特に指定はしない。授業内でレジュメを配布する。なお参考文献は授業内で紹介する。	□筆記試験（　　%）　■レポート（　100%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ﾘｱｸｼｮﾝﾍﾟｰﾊﾟｰ（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	2年次セミナー （アカデミックリテラシー）	2年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	総合的な学習経験と総合的思考力「客観的に分析する力」「主体的に考える力」、「論理的に考え、書き、発表する力」を実践する。
目標	1.「課題探求および解決能力を身につける」課題探求を実践するとともに学習の経験から自己の学び、成長を言語化する

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			Introduction：人間を唯一無二の存在として尊重し、どのような時も共感的態度を持ち、対象者のそばに寄り添うために	講義
2			スチューデントスキル① 倫理的態度・倫理観を行動や態度で示す力	講義
3			スチューデントスキル② 基礎看護学実習に向けて１	講義
4			スチューデントスキル③ 基礎看護学実習に向けて２	講義
5			スタディスキル① キャリアのビジョン　看護師になる気持ち	演習
6			スタディスキル② キャリアのビジョン　看護師になる気持ち	演習
7			スタディスキル③ 医療者への道	演習
8			スタディスキル④ 卒業生の歩んでいる姿	講義
9			スタディスキル⑤ 自己の課題を解決しようとする	講義
10			スタディスキル⑥ 領域別実習に向けて・１	講義
11			スタディスキル⑦ 領域別実習に向けて・２	演習
12			スタディスキル⑧ 領域別実習に向けて・３	演習
13			スチューデントスキル④ 豊かで柔軟な感性	演習
14			スチューデントスキル⑤ プレゼンテーション力	演習
15			スタディスキル⑨ 自分自身の考え方の傾向	講義

予習・復習	

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
特に指定はしない。授業内でレジュメを配布する。なお参考文献は授業内で紹介する。	□筆記試験（　　%）　■レポート（ 100%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ﾘｱｸｼｮﾝﾍﾟｰﾊﾟｰ（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	3年次セミナー （アカデミックリテラシー）	3年次	1単位 30時間	専任教員

目的	総合的な学習経験と総合的思考力を身につけ、自身のキャリアをイメージする。
目標	1.看護師としての夢や希望を抱き、自身の姿を見つめる

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			Introduction：自己を客観的に見つめ、倫理観を行動や態度に示す 1年生へのやる気アップにつなげる様々な活動と行動	講義
2			スチューデントスキル① 1年生との交流・学習	講義
3			スタディスキル① 臨地実習に向けて1	講義
4			スタディスキル② 臨地実習における学習体験・統合実習に向けた姿	講義
5			スチューデントスキル② 看護実践のまとめ	講義
6			スタディスキル③ 臨地実習に向けて2	講義
7			スタディスキル④ 臨地実習に向けて3	講義
8			スチューデントスキル③ キャリアビジョン（キャリア構想）	講義
9			スチューデントスキル④ キャリアビジョン（キャリア構想）	演習
10			スチューデントスキル⑤ キャリアビジョン（キャリア構想）	演習
11			スチューデントスキル⑥ キャリアのビジョン（キャリア構想）	演習
12			スチューデントスキル⑦ キャリアのビジョン（キャリア構想）	演習
13			スタディスキル⑤ 看護師の資格取得に向けて	演習
14			スタディスキル⑥ 看護師の資格取得に向けて	演習
15			スタディスキル⑦ ３年間の振り返り	演習

予習・復習	

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
特に指定はしない。授業内でレジュメを配布する。なお参考文献は授業内で紹介する。	□筆記試験（　　%）　■レポート（ 100%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ﾘｱｸｼｮﾝﾍﾟｰﾊﾟｰ（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	生物学	1年次	1単位 15時間	外部講師

目的	ヒトが生命活動を営み、「生きている」ということはどのようなことなのかを「生物学」という視点から理解する。
目標	「生物学」の知識が医療や看護にどのように関連していくかを概観できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			細胞と人体の組織 細胞の構造、細胞膜の働き、ヒトの組織・器官	講義
2			生殖 体細胞分裂、生殖	講義
3			発生と遺伝 DNAの構造・複製、遺伝子の転写・翻訳、脊椎動物の発生・性染色体	講義
4			人体の器官① 受容器、ニューロンの性質	講義
5			人体の器官② ヒトの神経系、効果器（筋肉）	講義
6			恒常性① 体液の循環、免疫、腎臓・肝臓の働き	講義
7			恒常性② ヘモグロビンの酸素解離曲線、血液凝集反応	講義
8			代謝 呼吸と発酵、エネルギー生産の仕組み・呼吸商	講義
※9			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
入学前教育　医療系総合講座テキスト 授業で資料を適宜配布する。	■筆記試験（ 100%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	心理学	1年次	1単位 15時間	外部講師

目的	心理学とは何だろうか。人間の心・精神、考え、感じ、行動する力とその仕組みを解明する学問である。それらは、どのようにして知ることができるだろうかを理解する。
目標	1.医療・看護の現場への応用も視野に入れながら、これまでに行われてきた心理学の研究について知る。 2.これらを通して人間を理解するための心理学的視点を身につける。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			Introduction：心理学の歴史と方法	講義
2			感覚・知覚・記憶	講義
3			思考・言語・知能	講義
4			学習・感情・動機づけ	講義
5			パーソナリティ・社会	講義
6			発達	講義
7			心理臨床・援助職としての看護	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
指定なし。授業内で適宜資料配布をする。	■筆記試験（ 100%） □レポート（ %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	発達とライフステージ	1年次	1単位 30時間	外部講師

目的	人間のライフステージを理解する。
目標	1.各ステージにおける成長・発達を理解できる。 2.各ステージにおける生活、健康の特徴を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			Introduction　生涯発達とは 生涯発達の主要な理論	講義
2			乳児期の発達①	講義
3			乳児期の発達②	講義
4			幼児期の発達①	講義・演習
5			幼児期の発達②	講義
6			学童期の発達①	講義
7			学童期の発達②	講義
8			思春期の発達	講義
9			青年期の発達	講義
10			成人期の発達①	講義
11			成人期の発達②	講義・演習
12			成人期の発達③	講義
13			老年期の発達	講義
14			全ライフステージの発達	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習は特に必要ありません。 復習については、必要に応じて各自行って下さい。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
生涯人間発達論（医学書院） 人生行動科学としての思春期学（東京大学出版会）	■筆記試験（　70%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　■授業参加状況（　30%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらいます。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	人間関係論	1年次	1単位 30時間	外部講師

目的	人間理解の多面性・複雑性を理解する。
目標	1.対象者への「理解」は、専門スタッフ、家族、当事者それぞれのもつ「文化」のもつれ合いの中で生まれることを理解する。 2.よりよい生活に向けて支援するということはどういうことかを考える。 3.心理学における文化歴史的アプローチをベースに、人間理解に大切な様々なテーマを通して議論しながら、 人間理解の多面性・複雑性を理解していく。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			Introduction：学問すること	講義
2			豊かなコミュニケーションを生む空間	講義
3			「体」と「体の外」：その境界はどこ？	講義
4			「怒り」について①：ある患者さんの怒り	講義
5			「怒り」について②：怒りを超えた先にあるもの	講義
6			「症状」を失くすこと	講義
7			「痛み」について：助産の文化人類学	講義
8			「自立」とは？	講義
9			「専門家」の役割	講義
10			病気とは①「病い」になること	講義
11			病気とは②：「病い」から回復すること	講義
12			ケアの空間をデザインする	講義
13			プレゼンテーション準備	講義
14			プレゼンテーション	講義 クラス別
15			まとめ・レポート作成について	講義 クラス別

予習・復習	新しく学んだ知識と自分なりに対話し、咀嚼し、アウトプットできるようになるため、毎回様々なテーマをもとにグループワークを行います。グループワークに真摯に向き合ってください。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
授業で資料を適宜配布	□筆記試験（　　%）　■レポート（ 100 %） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ﾘｱｸｼｮﾝﾍﾟｰﾊﾟｰ（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	メモが取れるようノートまたはルーズリーフを必ず用意してください。
備考 （メッセージ）	レポートは、中間レポート（７回目終了時点で提出）40点、最終レポート60点の2回に分けて提出となります。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	文化人類学	1年次	1単位 15時間	外部講師

目的	より広い視野をもった、「他者＝多様性」を理解できる医療従事者となるための文化観（文化の見方・考え方）を身につけることを目的とします。
目標	文化人類学は、さまざまな文化を調査・研究することを通して、「他者＝多様性」を理解しようとする学問です。本授業では、そうした文化人類学の基本を、医療を含むいくつかの具体的なテーマ・事例を交えながら学び、自身がもっている文化観の問い直しや更新もしてもらうことを目標に設定します。 なお、授業でとりあげる事例は、講師のフィールド（調査・研究地域）を踏まえて、ヨーロッパや日本のものが中心になります。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			私たちは文化／他者をどう見ているか・考えているか 授業に関する説明をし、さらに私たちの文化／他者の見方・考え方にはどんな問題があるのかを検討して、後の授業の足がかりとします。	講義
2			文化人類学とはどんな学問か 文化人類学という学問の基本的な特徴や登場の歴史などを概説します。文化とは何かについても合わせて考えます。	講義
3			文化人類学の方法 文化人類学においてもっとも重要な方法であるフィールドワーク（現地調査）について、実際の調査事例を交えながら説明します。	講義
4			象徴（シンボル）を考える 身近にも数多く存在する象徴をテーマに、事例を通してその基本的特徴を理解し、さらに「象徴交換」という人間の営みを読み解きます。	講義
5			祝祭を考える――カーニヴァルを事例として ヨーロッパの祝祭の１つであるカーニヴァルをとりあげ、祝祭の存在意義や文化がもつ「生態系」としての特徴について考えます。	講義
6			文化としての怪物（モンスター）を考える――現代の身近な事例から 身近な事例における怪物の意味と役割を読み解きながら、私たちがもつ怪物に対するイメージや理解を再検討します。	講義
7			医療を考える――医療は「科学的」であるべきなのか 民間医療の事例や西洋医療の現場における「非科学」を通して、これまでの学びを踏まえつつ、医療のありかたについて考えます。	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	単位認定試験に備えて、毎回学習内容をまとめ、独自の授業ノートを作成するようにしてください。また、授業中に紹介する文献のうち、興味をもったものは積極的に読み、理解を拡げるようにしましょう。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
特定のテキストは使用しません。毎回、講師作成のレジュメを配布します。以下は、受講にあたっての参考（推奨）文献です。 ◆祖父江孝男『文化人類学入門：増補改訂版』（中公新書） ◆川口幸大『ようこそ文化人類学へ：異文化をフィールドワークする君たちへ』（昭和堂）	■筆記試験（ 70% ） □レポート（ %） □実技試験（ %） ■授業参加状況（ 30% ）※ □その他（実習要綱に記載する方法・基準による ※ リアクションペーパー等

履修上の注意	毎回、授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、授業参加状況として評価します。 授業内容および順序は、理解度などにより多少変更となる場合があります。
備考 （メッセージ）	「他者＝多様性」を理解するための学問である文化人類学を学び、さまざまな文化の事例に触れることで、どのような医療従事者・社会人・国際人となっていけるのか／なるべきなのかを是非各自考えてください。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎	教育学	１年次	1単位 30時間	外部講師

目的	教育の原理・哲学を基盤とし、人間形成における教育を理解する。
目標	1.教育・学習理論について知り、主体的に学習する姿勢と態度が習得できる。 2.教育学的な視点から、指導と学習の効果を体験的に理解することができる。 3.教育評価の方法を用いて、自らの学習を評価することができる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			Introduction	講義・演習
2			グループワークの効果と活用方法	講義・演習
3			今後求められる学力	講義
4			教科書依存型授業の問題	講義
5			授業構成の原理と発問の重要性①	講義
6			授業構成の原理と発問の重要性②	講義
7			ロールプレイとシミュレーション	講義
8			人口減少と多文化教育	講義
9			多文化教育のロールプレイング・シミュレーション①	講義・演習
10			多文化教育のロールプレイング・シミュレーション②	講義・演習
11			身近なマイノリティー	講義・演習
12			開発と環境の教育	講義・演習
13			シティズンシップ教育と社会参加学習	講義
14			多様な評価方法	講義
15			リフレクション	講義・演習

予習・復習	予習は特に必要ありません。 復習については、必要に応じて各自行って下さい。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
授業中に適宜提示する。	□筆記試験（　　%）　■レポート（ 100% ） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
基礎分野	健康スポーツ学	1年次	1単位 30時間	外部講師

目的	講義および運動の実技での体験を通して、心身の健康に対する運動の影響や、運動の理論について理解する。また、対象に合ったレクリエーション・プログラムを作成し実践するのに必要な知識を習得する。
目標	1.幼少期から高齢期に至るまで、その時期に応じた適切な運動を行うことは健康寿命を延伸させることや、生活の質（QOL）を高く保つために非常に重要な要素であることを理解できる。 2.実際にレクリエーション・プログラムを作成し、それを実践することで、看護場面で生かせるレクリエーション支援の方法を身につける。

回数	日程	担当	授業内容	方法･教室
1			本授業の概要と目的 健康と運動、レクリエーション	講義
2			手軽に行える運動・身体活動　実技	演習 講堂
3			現代社会とスポーツ 現代の生活・健康と運動・スポーツ/スポーツ実施状況	講義
4			子どものスポーツ 現代の子どもの生活とスポーツ/子どもの発育とスポーツ	講義
5			スポーツトレーニング① 体力とは/エネルギーはどう生み出されるか	講義
6			スポーツトレーニング②　実技 ライフスタイルに合ったスポーツ/スポーツ障害	演習 講堂
7			スポーツと栄養（スポーツと性、女性のスポーツ参加） スポーツに必要な栄養素/スポーツ活動と消費エネルギー	講義
8			レクリエーションとは何か レクリエーション支援の目標と理念	講義
9			高齢者・障害者のレクリエーション	講義
10			レクリエーション・プログラムの作成	講義
11			レクリエーション・プログラムの実践・評価、まとめ グループ発表	演習 講堂
12			バレーボール他　実技	演習 講堂
13			バレーボール他　実技	演習 講堂
14			ヨガ　実技	演習 講堂
15			ヨガ　実技	演習 講堂

予習・復習	

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
特に指定はしない。授業内でレジュメを配布する。	■筆記試験（ 30 %）　■レポート（ 45 %） □実技試験（ %）　■授業参加状況（ 25 %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	実技は動きやすい服装で参加すること。
備考 （メッセージ）	

２．専　門　基　礎　分　野

看護者は対象の生活を支えるという使命を果たすために介入の時期、方法を判断し対象者の安楽と安寧を図ることを責務としている。医療者として他者の身体（精神含む）に関わる場合、どのように関わるのか選択しなければならない。

フィジカルアセスメントを学ぶには、解剖学・生理学の知識を身につけなければ始まらない。臨床判断に至るまでには、推論過程がある。

臨床場面での情報は、患者の身体であるので身体情報の把握→解釈過程の理解を深め、適切な臨床判断、看護の実践につながるよう科目設定をした。

専門分野の教授の際に専門基礎科目の知識を活用して尚且つ時期もシンクロさせた進度を作っていく必要があると考え科目設定した。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	人体の発生	１年次	1単位 15時間	外部講師

目的	人体の発生と構造について理解し、人体各器官、系統の形態機能について理解する。
目標	看護実践の土台となる人体の構造と機能について説明できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			看護の土台となる解剖生理学　体を構成するしくみ 細胞と組織老化と死（細胞・個体の老化・加齢に伴う諸臓器の変化・個体の死）	講義
2			食べること・消化すること・排泄することのしくみ 消化管の構造と機能	講義
3			全身のはたらきを調節するしくみ１ 神経系、中枢神経	講義
4			全身のはたらきを調節するしくみ２ 末梢神経	講義
5			全身のはたらきを調節するしくみ３ 内分泌系	講義
6			血液から不要な成分を体外へ排出するしくみ 腎臓のあらまし	講義
7			人の体を支える構造・姿勢・運動の基本 骨格系・筋肉系のあらまし	講義
8			まとめ	講義
＊9			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	人体のメカニズムⅠ （呼吸器・循環器・血液）	１年次	1単位 30時間	外部講師

目的	人体の発生と構造について理解し、人体各器官、系統の形態機能について理解する。
目標	１．呼吸器の臓器の構造の理解と機能を理解できる。 ２．循環器の臓器の構造の理解と機能を理解できる。 ３．血液・リンパ液の働きを理解し、人体に与える影響を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			呼吸器の構造と機能① 気道（上気道）の構造と機能	講義
2			呼吸器の構造と機能② 気道（下気道）の構造と機能	講義
3			呼吸器の構造と機能③ 肺の構造と機能・肺胞の構造	講義
4			呼吸器の構造と機能④ 肺胞の機能（肺胞におけるガス交換）	講義
5			呼吸器の構造と機能⑤ 肺胞におけるガス交換・血液による酸素と二酸化炭素の運搬	講義
6			呼吸器の構造と機能⑥ 胸郭の構造と呼吸運動/呼吸の調節	講義
7			循環器の構造と機能① 血液循環の特徴（肺循環と体循環）・心臓の位置と構造	講義
8			循環器の構造と機能② 心臓弁・心筋組織・冠状血管系	講義
9			循環器の構造と機能③ 心臓の刺激伝導系とポンプ機能	講義
10			循環器の構造と機能④ 動脈と静脈	講義
11			循環器の構造と機能⑤ 微小循環系（組織液の循環）	講義
12			循環器の構造と機能⑥ 血圧と循環器の調節	講義
13			血液の生理 血液の成分と機能・止血機構と線溶	講義
14			造血のしくみ・血液型・リンパ球の種類と働き・リンパ系の分布	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学 ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち①病態生理学	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	呼吸器系の構造と機能⑥　胸郭の構造と呼吸運動　の中で肺のモデルを作成します。 各自500mlのペットボトルとはさみを用意すること。（風船は各自2個分を学校で用意します。）
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	人体のメカニズムⅡ （消化器）	１年次	1単位 30時間	外部講師

目的	人体の発生と構造について理解し、人体各器官、系統の形態機能について理解する。
目標	１．消化器の構造と機能を理解し、消化吸収のメカニズムを理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			消化器（消化管）の構造と機能① 消化管の基本的な組織構造・消化管機能の調節	講義
2			消化器（消化管）の構造と機能② 口腔の構造と機能・咀嚼運動	講義
3			消化器（消化管）の構造と機能③ 咽頭と食道の構造と機能・嚥下運動	講義
4			消化器（消化管）の構造と機能④ 胃の構造と機能	講義
5			消化器（消化管）の構造と機能⑤ 小腸の構造と機能	講義
6			消化器（消化管）の構造と機能⑥ 消化管の基本的な組織構造・腸液の作用と分泌調節・腸運動の調節	講義
7			消化器（消化管）の構造の機能⑦ 大腸の構造と機能・直腸の構造と排便のしくみ	講義
8			肝臓の構造と機能① 肝臓の構造・消化器系の血管系と門脈系	講義
9			肝臓の構造と機能② 脾臓におけるビリルビン産生と肝臓におけるビリルビン代謝（胆汁の産生）	講義
10			肝臓の構造と機能③ 肝臓における栄養素の代謝と尿素サイクル	講義
11			膵臓・胆嚢の構造と機能① 膵液の産生と分泌調節・膵液の作用・膵臓ホルモンの分泌	講義
12			膵臓・胆嚢の構造と機能② 胆道の構造・胆汁の分泌調節・胆汁の作用	講義
13			栄養素の性質① 三大栄養素の種類と消化・吸収のしくみ	講義
14			栄養素の性質② 三大栄養素の代謝と利用	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学 ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち①病態生理学	■筆記試験（ 100 %） □レポート（ %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	人体のメカニズムⅢ （代謝・腎・泌尿器・内分泌・自律神経）	１年次	1単位 30時間	外部講師

目的	人体の発生と構造について理解し、人体各器官、系統の形態機能について理解する。
目標	1.代謝・体温調整の機能を理解し、消化吸収のメカニズムを理解できる。 2.腎・泌尿器の構造と機能を理解し、消化吸収のメカニズムを理解できる。 3.内分泌の構造と機能を理解し、消化吸収のメカニズムを理解できる。 4.自律神経の構造と機能を理解し、消化吸収のメカニズムを理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			恒常性維持における生体の反応① 温度変化に対する生体の反応・血糖値に対する生体の反応	講義
2			恒常性維持における生体の反応② 血液浸透圧・水分量・電解質濃度に対する生体の反応	講義
3			恒常性維持における生体の反応③ ストレス応答	講義
4			腎臓の構造と機能① 腎臓の位置と形態・腎臓における尿生成	講義
5			腎臓の構造と機能② 腎臓における尿生成とその調節	講義
6			腎臓の構造と機能③ 腎臓による血圧・血液の調節	講義
7			尿路の構造と機能 尿管・膀胱・尿道の構造と機能	講義
8			内分泌① 内分泌の概念・ホルモンの性質・ホルモンの作用様式	講義
9			内分泌② 視床下部と脳下垂体（フィードバック調節・サーカディアンリズム）	講義
10			内分泌③ 脳下垂体ホルモンの働き	講義
11			内分泌④ 甲状腺・甲状腺機能	講義
12			内分泌⑤ 副腎・副腎機能	講義
13			自律神経① 自律神経系の分布	講義
14			自律神経② 自律神経系の作用	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学 ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち①病態生理学	■筆記試験（ 100 %） □レポート（ %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	人体のメカニズムⅣ （脳神経・感覚器・生殖器・運動器）	１年次	1単位 30時間	外部講師

目的	人体の発生と構造について理解し、人体各器官、系統の形態機能について理解する。
目標	1.脳神経の構造と機能を理解できる。 2.感覚器の臓器の構造と機能を理解できる。 3.生殖器の機能と構造を理解できる。 4.運動器の機能と構造を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			神経の構造と機能	講義
2			脊髄の構造と機能・脳の構造と機能① 大脳・小脳・脳幹・間脳および脳室・髄液と脳脊髄液の循環	講義
3			脳の構造と機能② 意識障害と脳ヘルニアおよび脳・脊髄への血液供給	講義
4			脳の構造と機能③ 脳神経・脊髄および高次機能	講義
5			脳の構造と機能④ 運動・感覚情報の伝導路および神経診察法	講義
6			生殖器の構造と機能① 女性生殖器（女性生殖器の構造・卵巣）	講義
7			生殖器の構造と機能② 女性生殖器（ホルモンの働き・骨盤腔の臓器）	講義
8			生殖器の構造と機能③ 乳腺の構造と機能、男性生殖器	講義
9			人体の正常な発生 受精・着床から初期発生（胚発生）、後期発生（胎児の発育）・胎盤の構造と機能	講義
10			感覚器の正常と異常を理解するための知識 眼球・聴覚器・平衡感覚器の構造と機能	講義
11			耳鼻（聴覚と並行覚、嗅覚） 口腔（味覚、咀嚼）	講義
12			骨格の構造と機能 全身の骨格、骨格の概要・骨組織,関節の構造と機能	講義
13			筋の構造と機能 筋組織（筋細胞）の種類とはたらき、全身の骨格筋・関節運動への作用	講義
14			全身の骨格と筋 体幹の骨格と筋のつながり、基本的な運動と上下肢の骨格・筋肉系の作用	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学 ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち①病態生理学	■筆記試験（ 100 %） □レポート（ %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	感染予防	１年次	1単位 15時間	外部講師

目的	感染症の原因となる病原微生物を理解し、看護に必要な知識を習得する。
目標	1.感染症の概念を学び、感染症患者への看護に必要な知識を理解できる。 2.病原微生物の特徴を理解できる。 3.感染予防の重要性を理解し、拡大防止と予防対策を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			細菌総論　特徴と増殖様態、４原則 感染症の歴史　３大感染症、新型コロナウイルス感染症	講義
2			ウイルス・真菌・原虫総論 特徴と増殖様態	講義
3			感染予防　滅菌、消毒	講義
4			免疫 自然免疫・液性免疫・細胞性免疫・ワクチン・アレルギー	講義
5			ウイルス・細菌・真菌各論	講義
6			感染管理① スタンダードプリコーション	講義
7			感染管理② 予防接種	講義
8			単位認定試験	筆記試験
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち③臨床微生物・医動物	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	病理学	１年次	1単位 15時間	外部講師

目的	疾病の概念、原因、病理的状態について理解し、疾病の発生機序を形態学的知見から理解する。
目標	1.人体のメカニズムで学習する人体の正常機能をもとに、病的状態を理解できる。 2.疾病の原因や病理、形態と機能および代謝・変化について理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			病理学総論① 医療における病理診断、炎症と組織修復	講義
2			病理学総論② 免疫、感染、循環障害、代謝障害、老化	講義
3			病理学総論③ 先天性異常、腫瘍	講義
4			病理学各論① 循環器、呼吸器	講義
5			病理学各論② 内分泌、脳・神経・筋肉、骨・関節	講義
6			病理学各論③ 腎・泌尿器、生殖器及び乳腺	講義
7			病理学各論④ 血液・造血器、消化器	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
系看　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進［1］病理学 医学書院	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	治療論	１年次	1単位 15時間	外部講師

目的	治療方法の基礎的知識を得て、治療時における看護者の役割を理解する。
目標	1.治療方法の基礎を理解できる。 2.系統別、各器官臓器別疾患の治療方法を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			治療総論 予防医療、原因医療、在宅医療、急変時の医療	講義
2			麻酔科学総論	講義
3			全身麻酔、局所麻酔、硬膜外麻酔	講義
4			放射線医学①	講義
5			放射線医学②	講義
6			医療工学①	講義
7			医療工学②	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち①病態生理学 ナーシング・グラフィカ　成人看護学④周手術期看護 メディックメディカ　看護がみえる vol.2 臨床看護技術	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	疾病と治療Ⅰ （呼吸器・循環器）	１年次	1単位 30時間	外部講師

目的	各器官臓器別に、疾患の病態生理・症状・検査・治療を理解する。
目標	1.呼吸器疾患の病態生理・治療を学び、人体、日常生活に与える影響を理解できる。 2.循環器疾患の病態生理・治療を学び、人体、日常生活に与える影響を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			呼吸器機能障害の診断基準、症状① 気道における疾患（鼻炎・喘息）	講義
2			呼吸器機能障害の診断基準、症状② 肺がん	講義
3			呼吸器機能障害の診断基準、症状③ COPD（肺気腫）	講義
4			呼吸器機能障害の診断基準、症状④ 肺における疾患・肺炎	講義
5			呼吸器機能障害の診断基準、症状⑤ 呼吸不全と呼吸調整、運動の異常	講義
6			呼吸器機能障害の内科的な治療、処置、検査①	講義
7			呼吸器機能障害の外科的な治療、処置、検査②	講義
8			循環器機能障害の診断基準、症状　① 心不全、弁膜症	講義
9			循環器機能障害の診断基準、症状　② 不整脈	講義
10			循環器機能障害の診断基準、症状　③ 動脈系の疾患　動脈瘤・閉塞性動脈硬化症・心タンポナーデ	講義
11			循環器機能障害の診断基準、症状　④ 高血圧症と動脈硬化・心電図	講義
12			循環器機能障害の治療 外科的な治療・内科的な治療	講義
13			循環器機能障害の検査 心電図・血流動態モニタリング・心臓カテーテル法・心臓超音波	講義
14			循環器機能障害の診断基準、症状　⑤ 虚血性心疾患	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護①呼吸器 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護②循環器	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	疾病と治療Ⅱ （消化器・内分泌）	１年次	1単位 30時間	外部講師

目的	各器官臓器別に、疾患の病態生理・症状・検査・治療を理解する。
目標	1.消化器疾患の病態生理・治療を学び、人体、日常生活に与える影響を理解できる。 2.内分泌・代謝疾患の病態生理・治療を学び、人体、日常生活に与える影響を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			消化器機能障害の診断基準、症状① 食道がん	講義
2			消化器機能障害の診断基準、症状② 胃がん	講義
3			消化器機能障害の診断基準、症状③ 大腸がん、直腸がん	講義
4			消化器機能障害の診断基準、症状④ 腸炎（クローン病・消化性・感染性）、イレウス	講義
5			消化器機能障害の診断基準、症状⑤ 肝炎、肝臓がん	講義
6			消化器機能障害の診断基準、症状⑥ 脂肪肝、アルコール性肝炎、肝硬変	講義
7			消化器機能障害の診断基準、症状⑦ 胆石、胆嚢がん、胆道系疾患	講義
8			消化器機能障害の診断基準、症状⑧ 膵炎、膵臓がん	講義
9			消化器機能障害の検査 内視鏡検査・生検・造影法・超音波	講義
10			消化器機能障害の治療 外科的な治療・内科的な治療	講義
11			内分泌機能障害の診断基準、症状① 糖質代謝の異常：糖尿病の発生機序、糖尿病の全身に対する影響	講義
12			内分泌機能障害の診断基準、症状、治療、処置、検査② 視床下部・脳下垂体機能異常	講義
13			内分泌機能障害の診断基準、症状、治療、処置、検査③ 甲状腺・副甲状腺機能異常（機能亢進・機能低下）	講義
14			内分泌機能障害の診断基準、症状、治療、処置、検査④ 副腎皮質・髄質機能異常（機能亢進・機能低下）	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護③消化器 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護⑧腎／泌尿器／内分泌・代謝	■筆記試験（ 100 %） □レポート（ %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	疾病と治療Ⅲ （脳神経・運動器）	１年次	1単位 30時間	外部講師

目的	各器官臓器別に、疾患の病態生理・症状・検査・治療を理解する。
目標	1.脳神経疾患の病態生理・治療を学び、人体、日常生活に与える影響を理解できる。 2.運動器疾患の病態生理・治療を学び、人体、日常生活に与える影響を理解できる。 3.リハビリテーションの実際を学び、看護に必要な知識技術を身につける。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			脳神経機能障害の診断基準、症状、治療、処置、検査① 閉塞性脳血管障害(脳梗塞・TIA)およびパーキンソン病	講義
2			脳神経機能障害の診断基準、症状、治療、処置、検査② 筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、筋ジストロフィー症、および重症筋無力症	講義
3			脳神経機能障害の診断基準、症状、治療、処置、検査③ 認知症、髄膜炎・脳炎、てんかん、頭痛	講義
4			脳神経機能障害の診断基準、症状、治療、処置、検査④ 脳出血、クモ膜下出血、脳動静脈奇形、もやもや病など	講義
5			脳神経機能障害の診断基準、症状、治療、処置、検査⑤ 脳腫瘍	講義
6			脳神経機能障害の診断基準、症状、治療、処置、検査⑥ 頭部外傷、脳塞栓症、脳血栓症など	講義
7			運動器疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査① 骨粗鬆症と関節リウマチ	講義
8			運動器疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査② 筋肉・腱・靭帯の損傷	講義
9			運動器疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査③ 関節変性疾患	講義
10			運動器疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査④ 骨折分類、圧迫骨折、脊椎損傷	講義
11			運動器疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査⑤ 頚椎・腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、分離症、すべり症	講義
12			リハビリテーション看護① リハビリテーションとは リハビリテーションとは何か、リハビリテーションの歴史、リハビリテーション看護とは リハビリテーションに用いられる主要な概念	講義
13			リハビリテーション看護② 時期および目的からみたリハビリテーション看護、チームアプローチと看護師の役割	講義
14			リハビリテーション看護③ 生活の再構築へのアセスメントと援助	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護⑤脳・神経 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護⑦運動器 ナーシング・グラフィカ成人看護学⑤リハビリテーション看護	■筆記試験（ 100 %） □レポート（ %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	疾病と治療Ⅳ （血液・腎・泌尿器・生殖器・免疫）	１年次	1単位 30時間	外部講師

目的	各器官臓器別に、疾患の病態生理・症状・検査・治療を理解する。
目標	1.血液造血器疾患の病態生理・治療を学び、人体、日常生活に与える影響を理解できる。 2.腎・泌尿器疾患の病態生理・治療を学び、人体、日常生活に与える影響を理解できる。 3.女性生殖器疾患の病態生理・治療を学び、人体、日常生活に与える影響を理解できる。 4.免疫・アレルギー疾患の病態生理・治療を学び、人体、日常生活に与える影響を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			血液造血器疾患診断基準、症状、治療、処置、検査① 赤血球系の疾患と検査・治療　貧血・血液凝固系異常による疾患	講義
2			血液造血器疾患診断基準、症状、治療、処置、検査② 白血球系の疾患と検査・治療　白血病等	講義
3			血液造血器疾患診断基準、症状、治療、処置、検査③ 悪性腫瘍の検査・治療　悪性リンパ腫等	講義
4			好中球の機能、骨髄移植、出血系の疾患・検査・治療等④ 放射線療法・化学療法・薬物療法・骨髄移植	講義
5			腎疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査① 腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全	講義
6			腎疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査② 腎硬化症、腎血管性高血圧など	講義
7			泌尿器疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査① 腎臓がん、尿管がん、膀胱がん、前立腺がん	講義
8			泌尿器疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査② 腎結石、尿管結石、膀胱炎、尿道炎、前立腺肥大	講義
9			女性生殖器疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査 子宮がん、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫、卵巣がん	講義
10			生殖器疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査 乳腺炎、乳がん	講義
11			免疫・アレルギー疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査 膠原病（全身性エリテマトーデス・ベーチェット病など）と検査・診断・治療	講義
12			眼科疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査 白内障、緑内障、網膜剥離、視覚障害	講義
13			皮膚科疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査 湿疹、皮膚炎（アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎など）、蕁麻疹、薬疹、腫瘍	講義
14			歯科・口腔疾患の診断基準、症状、治療、処置、検査 う歯、歯周病	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護④血液／アレルギー・膠原病／感染症 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護⑥眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護⑧腎／泌尿器／内分泌・代謝 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護⑨女性生殖器	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	疾病と治療Ⅴ （精神病態）	２年次	1単位 15時間	外部講師

目的	精神疾患の病態生理・症状・検査・治療を理解する。
目標	1.精神の機能及びその破綻としての病態・治療・検査を理解できる。 2.対象のアセスメントができる基礎知識を習得する。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			精神疾患の病態・症状 総論	講義
2			精神疾患の病態・症状・治療 　統合失調症	講義
3			精神疾患の病態・症状・治療 　躁鬱病（気分障害）	講義
4			精神疾患の病態・症状・治療 　神経症性障害と適応障害（摂食障害、思春期精神障害）	講義
5			精神疾患の病態・症状・治療 　人格障害　発達遅滞、発達障害	講義
6			精神疾患の病態・症状・治療 　認知症（脳血管性、アルツハイマー）　器質的疾患	講義
7			精神疾患の病態・症状・治療 　知能検査、心理検査、精神療法　アルコール依存症	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 ナーシング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	疾病と治療Ⅵ （小児に特有な病態）	２年次	1単位 30時間	外部講師

目的	小児の疾患の特徴を理解する。
目標	1. 小児疾患の特徴（好発年齢、原因により多様な特徴）を理解できる。 2. 小児疾患の病態･症状・診断･治療などが理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			総論 小児の薬の使い方	講義
2			新生児の疾患 低出生体重児の疾患、呼吸窮迫症候群など	講義
3			呼吸器疾患 クループ症候群、気管支炎、肺炎など	講義
4			循環器疾患 先天性心疾患、後天性心疾患、川崎病、突然死など	講義
5			アレルギー・免疫疾患 喘息など	講義
6			感染症 ウィルス感染症、細菌感染症	講義
7			先天異常 遺伝子病、染色体異常、骨形成不全など	講義
8			内分泌疾患・代謝性疾患 糖尿病、アセトン血性嘔吐症、下垂体疾患、性腺の異常など	講義
9			腎泌尿器疾患 急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症、巣状細菌性腎炎、水腎症など	講義
10			消化器疾患 急性虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、周期性嘔吐症など	講義
11			血液・造血器疾患、悪性新生物 紫斑病、再生不良性貧血、白血病、悪性リンパ腫、脳腫瘍など	講義
12			神経疾患、けいれん けいれん性疾患、脳性麻痺、急性神経疾患など	講義
13			精神疾患 発達障害、神経症性障害、その他の行動上の障害など	講義
14			小児外科疾患 先天性食道閉鎖症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、臍帯ヘルニア、 鼠径ヘルニア、二分脊椎など	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	専門基礎分野で学んだ解剖生理や疾患についての知識をもとに、小児の特徴を学ぶ。 この講義の内容をノート等にまとめておくことが、実習や国家試験にもつながる。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ小児看護学③小児の疾患と看護	■筆記試験（ 100 %） □レポート（ %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	看護に必要な薬理学	２年次	1単位 30時間	外部講師

目的	薬物を用いた疾病の治療や予防を行う際の基本的知識を習得し、医療行為の安全な実践と、事故防止を理解する。
目標	1.薬の特徴、作用の機序、副作用について理解できる。 2.投与方法および量と薬理効果の関係を正しく理解できる。 3.患者に用いられる薬物の有効性と安全性を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			医薬品総論① 　医薬品、適正使用とは	講義
2			医薬品総論② 　体内動態、相互作用など	講義
3			主な生活習慣病に使用する薬① 　生活習慣病とは、高血圧、脂質異常症	講義
4			主な生活習慣病に使用する薬② 　狭心症・心筋梗塞・不整脈・心不全	講義
5			主な生活習慣病に使用する薬③ 　糖尿病	講義
6			がん・痛みに使用する薬	講義
7			感染症に使用する薬	講義
8			脳・中枢神経系疾患で使用する薬①	講義
9			脳・中枢神経系疾患で使用する薬②	講義
10			救命救急時に使用する薬	講義
11			アレルギー、免疫不全状態の患者に使用する薬	講義
12			消化器系疾患に使用する薬	講義
13			その他の症状に使用する薬①	講義
14			その他の症状に使用する薬②	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち②臨床薬理学	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	看護に必要な栄養学	２年次	1単位 30時間	外部講師

目的	5大栄養素の体内における役割と栄養学的意義を学び、栄養アセスメントの意義と方法を理解する。
目標	1. 食物の摂取と消化吸収を理解できる。 2. 健康生活を支える栄養の意義と望ましい食生活を理解できる。 3. 疾病の回復のための栄養食事療法について根拠と方法を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			代謝総論 栄養素の構造と性質	講義
2			栄養素の代謝①	講義
3			栄養素の代謝②	講義
4			食物の摂取と消化吸収	講義
5			ライフステージと健康教育	講義
6			病態別食事指導の実際① 周術期の栄養管理	講義
7			病態別食事指導の実際② 肝硬変の栄養管理	講義
8			病態別食事指導の実際③ 摂食・嚥下障害の栄養管理、褥瘡の栄養管理	講義
9			病態別食事指導の実際④ 慢性閉塞性肺疾患の栄養管理、がんの栄養管理	講義
10			病態別食事指導の実際⑤ 動脈硬化に対する栄養管理	講義
11			病態別食事指導の実際⑥ 糖尿病の栄養管理	講義
12			病態別食事指導の実際⑦ 慢性腎臓病の栄養管理	講義
13			栄養療法の種類と適応① 経腸栄養法	講義
14			栄養療法の種類と適応② 静脈栄養法	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能②臨床生化学 ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち④臨床栄養学 糖尿病食事療法のための食品交換表（文光堂）	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	現代社会と家族	１年次	1単位 15時間	外部講師

目的	現代社会における家族・国際社会について理解し、それらの特徴を検討することを通して、現代社会の様相について考えていく。その過程で、現代社会の様相を見つめ直すための柔軟な視座を獲得することを目指す。
目標	1.現代社会と家族が孕む諸問題を通して、将来の社会展望を考えられる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			社会学とは何か ー社会について考える意義ー	講義
2			家族と社会 ー家族の成り立ちや役割・機能をジェンダーなどの側面から考えるー	講義
3			教育と社会 ー人の育ちと家族、社会の関係を、ブルデューの議論などを通じて考えるー	講義
4			グローバリゼーションと家族 ーグローバル社会のなかで形成される家族や分割される家族の諸相を知るー	講義
5			日本と多文化化 ー多文化化する日本社会に住まう多様な人々の背景を知るー	講義
6			クラスメイトは愛国人の時代 ー日本日おける移民家族と子どもの育ちを考えるー	講義
7			全体のまとめ	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	各回の終盤に、必要に応じてポイントを述べますので、配布資料や推奨文献等をご参照のうえ、予習・復習をしてください。また、第2回～第6回は、リアクションペーパー（小レポート）の提出を求めます。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
適宜、資料を配布する。	■筆記試験（　80%）　■レポート（　20%） □実技試験（　%）　□授業参加状況（　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎分野	健康と生活	１年次	1単位 15時間	外部講師

目的	大きく変動する現代社会の中で、看護職者として現代社会のあり方をとらえ直すとともに、社会の基盤をなす一人ひとりの人間の生活・暮らしを理解することの重要性を学習する。
目標	1.「社会と健康のかかわり」という側面から健康と何かを理解する。 2.健康をめぐる社会的課題を、自分自身の問題として考える姿勢を身につける。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			健康とは何か ー健康と社会生活の関係を考える意義ー	講義
2			仕事と健康 ー働く人にとって、健康増進につながる働き方や職場のあり方を考えるー	講義
3			人権と健康 ー「スティグマ」などの概念をもとに、人権と健康の関係を考えるー	講義
4			性と健康 ー社会的健康をジェンダーの視点から考えるー	講義
5			格差と健康 ー社会的格差が人の健康の差を生み出す背景を考えるー	講義
6			グローバリゼーションと健康 ーグローバル化する社会における健康の諸相を考えるー	講義
7			全体のまとめ	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	各回の終盤に、必要に応じてポイントを述べますので、配布資料や推奨文献等をご参照のうえ、予習・復習をしてください。また、第2回～第6回は、リアクションペーパー（小レポート）の提出を求めます。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
必要に応じて、資料を配付する。	■筆記試験（ 80%） ■レポート（ 20%） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	看護に関係する法と制度	１年次	1単位 15時間	外部講師

目的	人々の健康を支援するための法律について理解する。
目標	1.看護活動に関わる法律について学び、看護職の責務・業務・役割について理解できる。 2.法制度と実際の乖離や問題点について、自分なりの考察ができる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			チーム医療と法の構造 医療法の歩み　医療提供理念　医療法の理念	講義
2			人に関する法律 医療専門職	講義
3			物・場所に関する法律 薬務法・毒物など、医療法、感染症法	講義
4			支えるシステムに関わる法律① 健康保険法、国民健康保険法	講義
5			支えるシステムに関わる法律② 母子保健法、母体保護法、児童福祉法、精神保健および精神障害者福祉法	講義
6			政策に関わる基本的等の関連法令① 社会保障法、地域保健法	講義
7			政策に関わる基本的等の関連法令② 災害政策に関する法律、労働政策に関する法律、女性政策に関する法律	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	社会福祉と社会保障システム	２年次	1単位 30時間	外部講師

目的	日々の看護活動に活かせるよう、人々の生活を支えるさまざまな社会福祉と社会保障に関する制度や法律、社会行政の仕組み・取り組みを理解する。
目標	1.社会福祉と社会保障の目的や機能、歴史について説明できる。 2.社会福祉と社会保障の対象・領域と制度・サービスについて説明できる。 3.社会福祉と社会保障の諸制度と日々の生活との関連について説明できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			現代社会と社会福祉 暮らしと社会福祉：社会福祉とは　社会福祉の歴史	講義
2			福祉の実践、資源の活用	講義
3			ライフサイクルと社会福祉① 子ども・家庭と福祉	講義
4			ライフサイクルと社会福祉② 障害児・者と福祉	講義
5			ライフサイクルと社会福祉③ 高齢者と福祉	講義
6			生活保護	講義
7			地域福祉	講義
8			暮らしと社会保障① 社会保障とは	講義
9			暮らしと社会保障② 社会保障の歴史	講義
10			社会保障制度① 年金制度	講義
11			社会保障制度② 医療保険制度	講義
12			社会保障制度③ 介護保険制度	講義
13			社会保障制度④ 雇用保険制度	講義
14			社会保障制度⑤ 労災保険制度	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	公衆衛生	３年次	1単位 30時間	外部講師

目的	地域で生活する人々の疾病を予防し、組織的に健康管理をするための公衆衛生の諸活動について理解する。
目標	1.寿命を延伸し身体的・精神的・社会的健康を保持・増進する方法を理解できる。 2.国際的規模、地球規模から人々の健康を脅かす健康問題を理解できる。 3.公衆衛生の視点から問題解決するしくみと方法を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			公衆衛生の歴史・システム	講義
2			公衆衛生の理念・概念	講義
3			公衆衛生のものさしー疫学	講義
4			国際保健ー経済格差と健康格差への国際協力	講義
5			地域保健①ー親子保健	講義
6			地域保健②ー精神保健福祉・自殺対策	講義
7			地域保健③ー難病対策・健康危機管理	講義
8			地域保健④ー感染症対策	講義
9			学校保健ー学校における児童生徒の健康管理	講義
10			産業保健ー職場における労働者の健康管理	講義
11			地域保健⑤ー日本人の健康と課題ー健康づくり・生活習慣病・がん対策	講義
12			地域保健⑥ー高齢者保健医療福祉・歯科保健	講義
13			環境保健①ー身の回りの環境と健康	講義
14			環境保健②ー地球規模の環境と健康	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障②公衆衛生	■筆記試験（ 100 %） □レポート（ %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門基礎	医療倫理	１年次	1単位 15時間	外部講師

目的	人間の生きる意味や生命の尊厳について理解する。
目標	1.現実を深く洞察する眼と倫理的な自覚・判断力を習得する。 2.生殖医療技術や再生医療、遺伝子診断、そして臓器移植と延命治療などの「生命倫理」の問題を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			生命と医療の倫理とは バイオエシックスの歴史と概要　倫理の方法　法と倫理の関係	講義
2			倫理理論　功利主義　義務論　徳倫理学　ケア倫理学 自律尊重とインフォームド・コンセント 医療倫理四原則の概要　ICの定義と成立要件　ICの免除　告知	講義
3			無危害と善行/危害の概念　善行の概念　QOL 無益性正義と社会の問題　正義理論　医療資源配分　公衆衛生と人権	講義
4			臨床倫理学と四分割表 決議論と臨床倫理学　四分割表の活用	講義
5			医療従事者・患者関係 専門職論　守秘義務とプライヴァシー　研究倫理	講義
6			生命の神聖さと生命の質/パーソン論　障害　ロングフルライフ訴訟　優生思想 出生をめぐる問題/リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 人工妊娠中絶　着床前/出生前診断　生殖補助医療	講義
7			死をめぐる問題 安楽死・自殺ほう助　終末期医療のガイドライン　脳死/臓器移植	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	予習：教科書に目を通し、概要を把握する。 復習：前回の資料に目を通し、復習・理解し、次の講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
授業で資料を適宜配布する。 参考図書　：新版　看護者の基本的責務（日本看護協会出版会）	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

３．専　門　分　野

１）基礎看護学

基礎分野、専門基礎分野を学んだうえで習得する専門分野において、他の看護学の土台に位置する。看護という学問の入口に立つ学生が、基礎看護学の全科目を習得することで、対象理解や基礎的実践能力を養う。

看護学概論では、看護学を初めて学ぶ人にとってガイダンスとなる科目であり、学習を通して看護に対する興味や関心を高めることをめざす。看護の根底にある考え方、看護を必要とする人々、看護が必要とされている場面や場所について、看護をするものに求められる倫理観や人間観について学習し、自らの看護観を育んでいくための手がかりとする。

生活援助論Ⅰ、生活援助論Ⅱ、生活援助技術演習Ⅰ、生活援助技術演習Ⅱ、生活援助技術演習Ⅲでは、身体の仕組みと日常生活行動の意義を理解し、患者の基本的ニードを充足させるための看護技術を科学的根拠と原則をふまえて学習する。

フィジカルアセスメント、フィジカルアセスメント演習では、対象理解と看護実践に必要なフィジカルアセスメントの基本技術について学習する。さらに、フィジカルアセスメントを用いた観察技術を基に、症状アセスメントについて学習し、臨床判断能力を養う。

診療の補助技術論、診療の補助技術演習では、対象の健康状態に応じた看護の必要性と、診断・治療に伴う基本的な看護技術について学習する。

看護の理論と実践では、看護の視点をもとに対象理解のプロセスとアセスメントの基礎的段階まで学習する。

基礎看護学実習Ⅰでは、看護実践の場の一つである病院について知り、看護の対象者とのコミュニケーション・医療従事者との関わりを通して、看護の役割や看護師としての姿勢を学習する。また、対象の療養生活に関心を持ち環境を観察することや、原理原則に基づいた基本技術の実践を通して健康障害のある対象者の理解と、日常生活援助の実際について学習する。

基礎看護学実習Ⅱでは、ヘンダーソンのニード論を活用し対象理解を深め、個別性に応じた日常生活援助を実践する。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	看護学概論 （ようこそ看護の世界へ）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	看護学に対する興味や関心を高め、看護の根底にある考え方、求められる看護師について学習し、これから学ぶ看護の手がかりとする。
目標	1.看護とは何かを考え、看護の本質が理解できる。 2.看護の対象と看護を提供する場が理解できる。 3.実践科学としての技術を提供するための看護技術が理解できる。 4.看護の理論家を知り、「人間」「環境」「健康」「看護」の概念が理解できる。 5.看護の独自の役割、看護の今後の方向性について理解できる。 6.対象との人間関係形成のためのコミュニケーションについて理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			ようこそ看護の世界へ Introduction：看護とは、看護の役割	講義
2			看護の対象とその理解　看護の主要概念 人間・健康（病気）・環境（生活）・看護　ナイチンゲール	講義
3			看護歴史的変遷	講義
4			看護ケアの基本的役割① コミュニケーター、人間関係の成立	講義
5			看護ケアの基本的役割② 看護の専門性、看護を提供するプロセス	講義
6			看護ケアの基本的役割③ プロセスレコード	講義
7			健康と病気におけるウエルネス ライフサイクルと健康・発達課題	講義
8			看護における倫理と価値・これからの看護の課題と展望	講義
9			看護における法的側面	講義
10			看護ケアの基本的役割④ 看護実践のための理論的根拠	講義・演習
11			看護ケアの基本的役割⑤ ヘンダーソン	講義・演習
12			看護ケアの基本的役割⑤ ヘンダーソン	講義・演習
13			保健・医療・福祉システム　提供の場・チーム・経済 病院見学	演習
14			まとめ 学習成果、学びのプレゼンテーション	演習 発表会
15				

予習・復習	予習においてはテキスト、関連書籍を熟読シ、理解できない箇所を明確にし、次の講義に質問する。 復習は、テキスト、講義資料、参考文献を用いて学習した内容を整理しノートにまとめ理解を深める。 厚生労働省のホームページの統計資料を参考にすると良い。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論②基礎看護技術Ⅰ フローレンス・ナイチンゲール、看護覚え書 ヴァージニア・ヘンダーソン　看護の基本となるもの （参考図書）仲間とみがく 看護のコミュニケーション・センス （参考図書）看護カンファレンス	□筆記試験（　　%）　■レポート（ 100 %） □技術試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	課題レポートの詳細は講義中に説明します。 1年次初期の履修開始科目です。授業に早く慣れるよう受講態度・姿勢など工夫しましょう。
備考（メッセージ）	看護とは何かを最初に学習する科目です。何ごとにも積極的・主体的に取り組んでください。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	生活援助論Ⅰ （感染予防・環境・活動と休息・食事）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	安全・安楽な生活援助技術（感染予防・環境・活動と休息・食事）を提供するための基本的知識を理解する。
目標	1.看護技術とは何かが理解できる。 2.感染予防の意義を理解し、感染予防対策の基礎知識を理解できる。 3.人間を取り巻く環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための方法を理解できる。 4.人間の活動・運動の意義や生理的メカニズムを学び、活動と休息のバランスが生活に及ぼす影響について理解できる。 5.人間にとっての食事の意義を考え、食事の援助に必要な基礎知識を理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			看護技術とは何か 技術の構成要素、医療安全の概念、看護技術の手順のまとめ方	講義
2			感染予防を推進する技術① 感染予防の意義　感染症に関する法律　感染症を成立させる要素と成立過程	講義
3			感染予防を推進する技術② 感染を予防するためのプロセス	講義
4			感染予防を推進する技術③ 感染予防のための援助方法　感染症発症時の対応	講義
5			快適な環境をつくる技術① 環境の意義　環境を整える技術　環境のアセスメント	講義
6			快適な環境をつくる技術② 環境整備・ベッドメーキング	講義
7			活動・運動を支援する技術① 活動・運動の意義　活動・運動に関する基礎知識　ボディメカニクス	講義
8			活動・運動を支援する技術② 同一体位と体圧　褥瘡　体位変換　体位の種類　ポジショニング	講義
9			活動・運動を支援する技術③ 歩行　車椅子　ストレッチャー	講義
10			休息・睡眠を促す技術 休息・睡眠の意義　休息・睡眠に関する基礎知識　休息・睡眠を促す援助の実際	講義
11			食事・栄養摂取を促す基本技術① 食事・栄養の意義　食事・栄養に関する基礎知識	講義
12			食事・栄養摂取を促す基本技術② 栄養状態のアセスメント	講義
13			食事・栄養摂取を促す基本技術③ 経静脈栄養・経口栄養の援助・高カロリー輸液	講義
14			食事・栄養摂取を促す基本技術④ 口腔ケア・経管栄養	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	テキスト、関連書籍を熟読する。理解できない個所を明確にし、次の講義に質問する。関連動画は視聴しておく。 復習は、テキスト、講義資料、参考文献を用いて学習した内容を整理しノートにまとめ理解を深める。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 看護がみえるvol.①基礎看護技術	■筆記試験（ 70 %）　■レポート（ 30%） □技術試験（　%）　□授業参加状況（　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	事前学習をもとに授業を進めていきます。主体的に学習に取り組みましょう。
備考 （メッセージ）	基本的な知識を理解し様々な生活援助について学習しましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	生活援助論Ⅱ （清潔・排泄）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	安全・安楽な生活援助技術（清潔・排泄）を提供するための基本的知識を理解する。
目標	1.清潔・衣生活の意義を考え、清潔援助に必要な基礎知識が理解できる。 2.排泄の意義を考え、排泄の援助に必要な基礎知識が理解できる。

回数		担当	授業内容	方法
1			身体の清潔を援助する技術① 清潔・衣生活の意義	講義
2			身体の清潔を援助する技術② 清潔・衣生活の基礎知識　皮膚・粘膜の生理的メカニズムとケア	講義
3			身体の清潔を援助する技術③ 清潔・衣生活のアセスメント	講義
4			身体の清潔を援助する技術④ 入浴・整容　洗髪・結髪	講義
5			身体の清潔を援助する技術⑤ 手浴・足浴	講義
6			身体の清潔を援助する技術⑥ 清拭・更衣	講義
7			排泄を促す技術① 排尿・排便の意義　排泄行動を阻害する活動・運動上の要因	講義
8			排泄を促す技術② 尿の生成と排尿のメカニズム　尿の性状　自然排尿を阻害する要因	講義
9			排泄を促す技術③ 便の生成と排便のメカニズム　便の性状　自然排便を阻害する要因	講義
10			排泄を促す技術④ 床上での排尿・排便の援助 失禁のある患者の援助　ポータブルトイレでの援助	講義
11			排泄援助の実際⑤ 自然排便を促す援助：腰背部温罨法・腸蠕動音聴取・腹部マッサージ	講義
12			排泄援助を促す技術⑥ 自然排便を促す援助　自然排泄が困難な患者の援助：浣腸・摘便	講義
13			排泄援助を促す技術⑤ 自然排尿を促す方法　自然排泄が困難な患者の援助：導尿	講義
14			排泄援助の実際② おむつ交換・陰部洗浄	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	テキスト、関連書籍を熟読する。理解できない個所を明確にし、次の講義に質問する。関連動画は視聴しておく。 復習は、テキスト、講義資料、参考文献を用いて学習した内容を整理しノートにまとめ理解を深める。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 看護がみえるvol.①基礎看護技術 看護がみえるvol.②臨床看護技術	■筆記試験（70%）　■レポート（　30%） □技術試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	事前学習を基に授業を進めていきます。主体的に学習に取り組みましょう。
備考 （メッセージ）	臨床で行われる機会の多い技術になります。基本的な知識を理解し様々な生活援助について学習しましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	生活援助技術演習Ⅰ （感染予防・環境・食事）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	科学的根拠と原理・原則に基づいた生活援助技術（感染予防・環境・食事）を習得する。
目標	1.標準予防策と滅菌手袋の取扱いの技術を習得できる。 2.安全・安楽な療養環境を整えるための技術を習得できる。 3.安全に食事を摂取するための援助技術を習得できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			感染予防を推進する技術 手洗い・マスク・エプロン	演習
2			感染予防を推進する技術 滅菌物の取り扱い	演習
3			快適な環境をつくる技術① リネンのたたみ方	演習
4			快適な環境をつくる技術① 基本ベッド作成	演習
5			快適な環境をつくる技術① ベッドメイキング（１人）	演習
6			快適な環境をつくる技術② 環境整備	演習
7			快適な環境をつくる技術③ 臥床患者のシーツ交換	演習
8				
9			食事・栄養摂取を促す技術① 経口栄養の技術	演習
10			食事・栄養摂取を促す技術② 口腔ケア	演習
11			手洗い・マスク・エプロン・滅菌手袋の装着	実技試験
12			事例患者の環境整備	演習
13				
14			臥床患者のシーツ交換	技術試験
15				

予習・復習	演習前は動画視聴やテキストを読み、技術の基本動作を学習してから授業に臨みましょう。 演習終了後は、反復練習を行い技術試験の合格を目指しましょう。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 看護がみえるvol.①基礎看護技術	□筆記試験（　　%）　■レポート（　40%） ■技術試験（　60%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	手順書の提出をレポート点とします。演習時は常に身だしなみを整えましょう。
備考 （メッセージ）	演習では看護師役・患者役のどちらも経験します。経験を通してでなければ理解できないことも沢山ありますので、積極的に取り組みましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	生活援助技術演習Ⅱ （活動と休息・排泄）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	科学的根拠と原理・原則に基づいた生活援助技術（活動と休息・排泄）を習得する。
目標	1.ボディメカニクスを活用し、安全で効率的な活動や移動を支える基礎的な技術を習得できる。 2.休息・睡眠を促すための援助技術を習得できる。 3.排泄を整えるための援助技術を習得できる。 4.対象の安全・安楽を看護の視点で考え、取り組むことができる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			活動・運動を支援する技術① 体位変換・ポジショニング	演習
2				
3			活動・運動を支援する技術② 移動・移送　　歩行	演習
4				
5			陰部洗浄とおむつ交換	演習
6				
7			陰部洗浄・おむつ交換　練習	演習
8			排泄を促す技術① 床上排泄の援助：尿器・便器　　ポータブルトイレでの排泄介助	演習
9			排泄を促す技術② 腸蠕動音の聴診・腹部温罨法・腹部マッサージ	演習
10			排泄を促す技術③ 浣腸・摘便	演習
11			排泄を促す技術④ 導尿・膀胱留置カテーテル	演習
12				
13			車椅子移乗・移送実技試験に向けた事例検討	演習
14			車椅子移乗・移送	技術試験
15				

予習・復習	演習前は動画視聴やテキストを読み、技術の基本動作を学習してから授業に臨みましょう。 演習終了後は、反復練習を行い技術試験の合格を目指しましょう。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 看護がみえるvol.①基礎看護技術	□筆記試験（　　%）　■レポート（　70%） ■技術試験（　30%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	手順書の提出をレポート点とします。演習時は常に身だしなみを整えましょう。
備考 （メッセージ）	原理原則を理解し確実にみにつけられるよう主体的に学習を行いましょう。また、排泄の援助はその人の社会性や尊厳にも関わる行為でもあるため援助の際の配慮についても理解してほしいと思います。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	生活援助技術演習Ⅲ （清潔）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	科学的根拠と原理・原則に基づいた生活援助技術（清潔）を習得する。
目標	1.清潔・衣生活を整えるための援助技術を習得できる。 2.対象の安全・安楽を看護の視点で考え、取り組むことができる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			身体の清潔を援助する技術① 患者体験	演習
2			身体の清潔を援助する技術② 洗髪・結髪　　＊ケリ-パット	演習
3				演習
4			身体の清潔を援助する技術②　洗髪台、洗髪車使用	演習
5			身体の清潔を援助する技術③ 足浴	演習
6				演習
7			身体の清潔を援助する技術③　座位の足浴	演習
8			身体の清潔を援助する技術④ 寝衣の交換：病衣（浴衣式）	演習
9			身体の清潔を援助する技術⑤ 寝衣の交換：上下式　丸首シャツ	演習
10			身体の清潔を援助する技術⑥ 清拭・更衣	演習
11				演習
12				演習
13			清潔援助　技術試験に向けた事例検討	演習
14			清潔援助	技術試験
15				

予習・復習	演習前は動画視聴やテキストを読み、技術の基本動作を学習してから授業に臨みましょう。 演習終了後は、反復練習を行い技術試験の合格を目指しましょう。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 看護がみえるvol.①基礎看護技術 看護がみえるvol.②臨床看護技術	□筆記試験（　　%）　■レポート（　60%） ■技術試験（　40%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	手順書の提出をレポート点とします。演習時は常に身だしなみを整えましょう。
備考 （メッセージ）	演習では看護師役・患者役のどちらも経験します。経験を通してでなければ理解できないことも沢山ありますので、積極的に取り組みましょう。清潔の援助技術では患者の立場で心地よさを実感することも大切です。また、羞恥心を伴う援助でもあるため援助の際の配慮についても理解してほしいと思います。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	フィジカルアセスメント	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	生命の徴候を観察する意義を知り、人間の全身を系統的に把握するための基礎的知識を理解する。
目標	1. ヘルスアセスメントの意義および必要性が理解できる。 2. バイタルサイン測定に必要な基礎知識が理解できる。 3. 身体状況に応じたフィジカルアセスメントの目的と方法について理解できる。 4. 故人への尊厳の念と旅立ちへの準備について理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			ヘルスアセスメントと看護の役割 　ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントとは フィジカルアセスメントの目的　身体計測の目的・方法、罨法	講義
2			フィジカルアセスメントの実際 　フィジカルアセスメントの方法：問診・視診・触診・打診・聴診	講義
3			生命の徴候を観察する技術① 　バイタルサイン測定の意義　意識の確認・瞳孔の観察	講義
4			生命の徴候を観察する技術② 　体温のメカニズムと体温測定の技術	講義
5			生命の徴候を観察する技術③ 　脈拍のメカニズムと脈拍測定の技術　心音聴診の技術	講義
6			生命の徴候を観察する技術④ 　血圧のメカニズムと血圧測定の技術	講義
7			生命の徴候を観察する技術⑤ 　呼吸のメカニズムと呼吸音聴取の技術	講義
8			生命の徴候に関する援助技術 ⑥ 　バイタルサイン測定/観察・記録・報告	講義
9			フィジカルアセスメントの技術① 　心臓血管系のフィジカルアセスメント：脱水・浮腫・中心静脈圧	講義
10			フィジカルアセスメントの技術② 　腹部のフィジカルアセスメント	講義
11			呼吸を楽にする技術① 　呼吸法・酸素療法・加湿療法	講義
12			呼吸を楽にする技術② 　排痰法・吸引療法	講義
13			危篤・終末時における技術① 　人間にとっての危篤　終末時の意味	講義
14			危篤・終末時における技術② 　危篤・終末時の生理的変化とケア　終末を迎えた後のケア	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	テキスト、関連書籍を熟読する。理解できない個所を明確にし、次の講義に質問する。関連動画は視聴しておく。 復習は、テキスト、講義資料、参考文献を用いて学習した内容を整理しノートにまとめ理解を深める。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
フィジカルアセスメントがみえる ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術	■筆記試験（ 70%）　■レポート（ 30 %） □技術試験（ %）　□授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	人体の構造と機能で学習したことを復習し、専門用語を確認しておく。 事前学習をもとに授業を進めていきます。主体的に学習に取り組みましょう。
備考 （メッセージ）	フィジカルアセスメントは、解剖生理学の知識を基礎とするものです。原理原則を理解することで身体的な臨床判断能力を身に着けることにつながります。正しい知識を習得しましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	フィジカルアセスメント演習	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	人間の全身を系統的に把握するための基本的技術を習得する。
目標	1. フィジカルイグザミネーションを行う上で必要な物品を正しく操作できる。 2. バイタルサイン測定が正確かつ正しい値で測定できる技術を習得できる。 3. 身体状況に応じた看護援助技術を習得できる。 4. 死後の処置に必要な技術が理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			生命の徴候を観察する技術① 表在動脈の触知・脈拍測定	演習
2			生命の徴候を観察する技術② 血圧測定	演習
3			生命の徴候を観察する技術③ 血圧チェック	演習
4			生命の徴候を観察する技術④ バイタル測定一連	演習
5			生命の徴候を観察する技術⑤　（呼吸器） 視診・触診・打診・聴診の技術、血中酸素濃度の測定	演習
6			フィジカルアセスメントの技術①　（循環器） 中心静脈圧の測定、浮腫の観察　心音聴診	演習
7			フィジカルアセスメントの技術②　（腹部） 視診・聴診・打診・触診　腹水の観察　腹囲測定	演習
8			呼吸を楽にする技術① 呼吸法　吸入	演習
9			呼吸を楽にする技術② 安楽な呼吸法	演習
10			呼吸を楽にする技術③ 吸引	演習
11			生命の徴候を観察する技術 模擬患者のバイタルサイン測定、観察・記録・報告	演習
12				
13			終末を迎えた後のケア 死後のケア	演習
14			バイタルサイン測定	技術試験
15				

予習・復習	演習前は動画視聴やテキストを読み、技術の基本動作を学習してから授業に臨みましょう。 演習終了後は、反復練習を行い技術試験の合格を目指しましょう。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
フィジカルアセスメントがみえる ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術	□筆記試験（　%）　■レポート（ 60%） ■技術試験（ 40%）　□授業参加状況（　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	手順書の提出をレポート点とします。演習時は常に身だしなみを整えましょう。
備考 （メッセージ）	バイタルサイン測定は患者の生命徴候をアセスメントするうえで必須項目です。100人のバイタルサイン測定を目指しましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	診療の補助技術論 （検査・与薬・救急救命処置）	1年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	科学的根拠と原理・原則に基づいた診療の補助技術（検査・与薬・救急救命処置）を理解する。
目標	1.各種検査の目的と方法を理解し看護に必要な基礎知識が理解できる。 2.薬物療法の意義を考え看護師の役割が理解できる。 3.各与薬法の特性を理解し安全かつ安楽に実施するための基礎的知識が理解できる。 4.救急救命処置に必要な基礎知識が理解できる。

		担当	授業内容	方法
1			検査・治療を安全かつ正確に行う技術① 検査の意義　検査室における看護師の役割　尿・便・喀痰検査	講義
2			検査・治療を安全かつ正確に行う技術② X線単純検査　超音波検査　CT検査　MRI	講義
3			検査・治療を安全かつ正確に行う技術③ 上・下腹部内視鏡検査　心電図検査	講義
4			検査・治療を安全かつ正確に行う技術④ 腰椎穿刺・胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺	講義
5			検査・治療を安全かつ正確に行う技術⑤ 核医学検査　基礎代謝検査　呼吸機能検査	講義
6			検査・治療を安全かつ正確に行う技術⑥ 静脈血採血	講義
7			与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術① 与薬における法的根拠　与薬のための基礎知識と６R	講義
8			与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術② 与薬法：経口・口腔内・直腸内・点眼・点・点鼻	講義
9			与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術③ 与薬法：吸入薬・塗布・貼付	講義
10			与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術④ 注射法：皮内・皮下・筋肉注射の目的・方法	講義
11			与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術⑤ 注射法：静脈注射・点滴静脈注射	講義
12			与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術⑥ 輸血のための援助技術　与薬における安全管理	講義
13			皮膚・創傷を管理する技術 創傷の分類と治癒過程　創傷の管理	講義
14			救急救命処置を行う技術 救急時における看護師の役割　一次救命処置　応急処置・胃洗浄	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	テキスト、関連書籍を熟読する。理解できない個所を明確にし、次の講義に質問する。関連動画は視聴しておく。 復習は、テキスト、講義資料、参考文献を用いて学習した内容を整理しノートにまとめ理解を深める。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 看護がみえるvol.①基礎看護技術 看護がみえるvol.②臨床看護技術	■筆記試験（ 100　%）　□レポート（　　%） □技術試験（　　%）　□授業参加状況（　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	看護専門職を目指す者の基本姿勢として学習態度を重要視します。
備考 （メッセージ）	薬物療法は常に行われる看護業務の1つであるため、安全・安楽に実施するための知識を身につけましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	診療の補助技術演習 （検査・与薬・救急救命処置）	1年次	1単位 15時間	専任教員 外部講師

目的	科学的根拠と原理・原則に基づいた診療補助の基本技術を習得する。
目標	1.採血についての基本を理解し、正しい採血の技術を習得できる。 2.注射法についての基本を理解し、正しい皮下注射・点滴静脈内注射の技術を習得できる。 3.正しい一次救命処置（BLS）の技術を習得できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			検査レポートロールプレイング	演習
2			検査・治療を安全かつ正確に行う技術 採血	演習
3				
4			与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術　注射法① 筋肉注射	演習
5			与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術　注射法② 点滴静脈内注射	演習
6				
7			BLS演習・講義	演習
8			BLSの技術試験	技術試験

予習・復習	演習前は動画視聴やテキストを読み、技術の基本動作を学習してから授業に臨みましょう。 演習終了後は、反復練習を行い技術試験の合格を目指しましょう。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 看護がみえるvol.①基礎看護技術 看護がみえるvol.②臨床看護技術	□筆記試験（　　%）　■レポート（ 80%） ■技術試験（ 20%）　□授業参加状況（　　%）

履修上の注意	手順書の提出をレポート点とします。注射針を用いての演習になりますので取り扱いに注意し安全に実施しましょう。演習時は常に身だしなみを整えましょう。
備考 （メッセージ）	モデル教材をもちいて学習します。与薬の技術を実践するのは臨床に出てからとなるため、演習は貴重な時間と考えます。効果的な機会とするため予習を行い臨みましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	看護の理論と実践 （看護過程の基礎）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	理論を活用した看護過程の基礎を理解する。
目標	1.理論と看護過程のつながりが理解できる。 2.情報の整理・分類できる。 3.情報の分析・解釈できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			看護過程の意義 PDCA	講義
2			常在条件と病理的状態、基本的看護の構成要素14	講義
3			アセスメントガイドの活用	講義・演習
4			情報の分類① 正常な呼吸　食事　排泄　姿勢の維持	講義・演習
5			情報の分類② 睡眠と休息　衣服の選択と着脱　体温保持　清潔の保持	講義・演習
6			情報の分類③ 環境　コミュニケーション　信仰　仕事　レクリエーション　学習	講義・演習
7			情報の分析・解釈① 正常な呼吸	講義・演習
8			情報の分析・解釈② 食事	講義・演習
9			情報の分析・解釈③ 排泄	講義・演習
10			情報の分析・解釈④ 姿勢の維持、睡眠と休息	講義・演習
11			情報の分析・解釈⑤ 衣服の選択と着脱　体温保持	講義・演習
12			情報の分析・解釈⑥ 清潔の保持　環境	講義・演習
13			情報の分析・解釈⑦ コミュニケーション　信仰	講義・演習
14			情報の分析・解釈⑧ 仕事　レクリエーション　学習	講義・演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	テキスト、関連書籍を熟読する。理解できない個所を明確にし、次の講義に質問する。関連動画は視聴しておく。 復習は、テキスト、講義資料、参考文献を用いて学習した内容を整理しノートにまとめ理解を深める。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論 ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 看護過程を使ったヘンダーソンの看護論の実践	■筆記試験（50%）　■ﾚﾎﾟｰﾄ（15%）･ﾌｧｲﾙ（35%） □技術試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	対象の最善の看護を導き出す学習です。日々の学習は次の学習のステップにつながりますので、授業進度に合わせ進めるようにしましょう。
備考 （メッセージ）	対象を生活者として捉え、ニードを分析判断することで臨床判断能力が養われていきます。 グループでの意見交換を行い、様々な考えを吸収していきましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	基礎看護学実習Ⅰ	1年次	1単位 40時間	専任教員

目的	看護の対象・対象の療養環境・看護の役割を知り、看護師としての態度を養う。
目標	1.看護の対象に関心を持ち、身体的・精神的・社会的側面について考えることができる。 2.対象の療養環境が理解できる。 3.病院での療養生活の概要、および看護師の役割について理解できる。 4.対象を尊重した態度、言葉遣いでコミュニケーションをとることができる。

授業計画

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法 ・接遇の説明を受ける。
・病院の概要などオリエンテーションを受ける。
・院内の各部門を見学する。
・患者を一名受け持つ。
・患者の背景や療養生活の状況を把握する。
・看護師と患者のコミュニケーション場面や日常生活援助の実際を見学する。
・受け持ち患者に環境整備、バイタルサイン測定を実施する。
・見学、実施した援助を振り返る。
・カンファレンスで意見交換を行い、看護に活かす。

実習期間 1年次後期

実習施設 上尾中央医科グループの病院

【実施する技術】 環境整備(シーツ交換含む) バイタルサイン測定

予習・復習	実習前の事前課題に取り組む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
看護がみえるvol.①基礎看護技術 看護がみえるvol.②臨床看護技術 フィジカルアセスメントがみえる	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □技術試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	実習要綱を熟読し実習準備を十分にしておいてください。環境整備、ベットメーキング、バイタルサイン測定などの基本技術は確実に実施できるよう反復練習を行いましょう。
備考 （メッセージ）	初めて臨地に赴き、病院や対象者の療養環境を体感する実習です。看護場面での人間関係を成立していくためのコミュニケーションを学びます。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	基礎看護学実習Ⅱ	2年次	2単位 80時間	専任教員

目的	看護の対象を理解し、対象の健康状態に応じた日常生活援助を実践する。
目標	1.看護の対象に関心を持ち、身体的・精神的・社会的側面で捉えることができる。 2.V.ヘンダーソンの理論に基づき情報を収集することができる。 3.対象の未充足状態と原因を考えることができる。 4.対象に応じた日常生活援助が実践できる。 5.自ら学んだ成果を振り返り、記述することができる。

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法
・対象理解のために必要な事前学習を行う。
・日常生活援助が必要な患者を一名受け持つ。
・受け持ち患者の現病歴、治療方針は可能な限り説明を受ける。
・身体状況、主な援助内容などについては看護師より説明を受ける。
・患者と関係性を構築しながら、意図的な情報収集を行う。
・患者の安全・安楽・自立・個別性を踏まえた日常生活援助を実施する。
・実施した援助を振り返る。
・思考の整理では、自己の考えを説明し、教員・指導者から助言を受ける。
・カンファレンスで意見交換を行い、看護に活かす。

実習期間 2年次前期

実習施設 上尾中央医科グループの病院

【提供できる技術】
必ず実施
- 環境整備
- バイタルサイン

予習・復習	解剖生理学の復習 看護過程の見直し

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
看護がみえるvol.①基礎看護技術 看護がみえるvol.②臨床看護技術 フィジカルアセスメントがみえる ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □技術試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	基礎看護学実習Ⅱの受講には、基礎看護学実習Ⅰが先修条件科目となります。
備考 （メッセージ）	対象者に関心を持ち、対人関係を築いていきましょう。その中から対象者が目指す健康的な生活を送れるように看護を実践していきましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

２）地域・在宅看護論

日本は、少子高齢化が一層伸展し、さらに生産年齢人口の減少が大きな課題となっている。そこで、地域包括ケアシステム等の推進に向けて看護教育も対応していくことが求められている。地域・在宅看護論では、地域で療養する人々だけではなく、生活する人々とその家族を対象とするとともに、療養の場の拡大を踏まえ、多様な場での実践される看護について学習する。

地域・在宅看護論Ⅰでは、看護の基盤となる健康・地域・暮らしについて考える。地域の情報を収集し、地域の特性や健康課題や自助・互助について考え、自助・互助の体験を通じて学習する。

地域・在宅看護論Ⅱでは、地域包括ケアシステムの中の看護について、学習する。また実際の在宅看護について事例から学習する。

地域・在宅看護論Ⅲでは、「生活の場」における対象に対し、日常生活援助技術を提供するため、対象の症状や環境などの個別性に合わせた援助について学習する。

地域・在宅看護論Ⅳでは、医療処置の目的や安全などの基礎知識を学ぶと同時に、療養者と家族への支援と指導について学習する。

地域・在宅看護論Ⅴでは、「療養者を含む家族」を一つの家族として捉え、家族の持つ力を活かしてかかわることについて考え、学習する。

地域・在宅看護論Ⅵでは、事例展開を通して在宅療養者とその家族の生活を捉えた看護、取り巻く環境や支援するシステム（介護保険制度等の社会保障制度）を学ぶ。また多職種との連携や協働についても学習する。

地域・在宅看護実習では、地域・在宅看護実習Ⅰ・Ⅱを通じて、多様な場で働く看護の役割や多職種との連携・協働、様々な資源を利用しながら生活する療養者・家族を理解し、対象への看護について学習する。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	地域・在宅看護論Ⅰ （健康・地域・暮らし）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	地域の情報を収集し、地域の特性と健康課題について考える。
目標	1.地域が生活している人々に与える影響について説明できる。 2.地域での人々の暮らしについて推論できる。 3.暮らしが健康に与える影響について推論できる。 4.地域の生活環境が健康に与える影響について整理できる。 5.自助・互助について整理できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			健康とは 健康状態と健康を維持するために必要な資源について考える 健康に影響する環境・公的な資源について考える	講義
2			生活の場について 家・病院・施設	講義
3			上尾ってどんな所？　地域を知ろう 人口（年齢別人口割合・外国人の割合など）・医療・福祉、災害対策	講義
4			上尾ってどんな所？ 地区踏査	演習
5				演習
6			上尾ってどんな所？ まとめ	講義
7			上尾ってどんな所？ まとめ　発表	演習
8			自立について考える 自助・互助・共助・公助	講義
9			自立を助けるとはどういうことか？ 自助・互助について考え、体験する	演習
10				演習
11				演習
12				演習
13				演習
14			自立を助けるとはどういうことか？ まとめ	講義
15			自立を助けるとはどういうことか？ まとめ　発表	演習

予習・復習	6～7回目講義終了後にテーマを発表します。 グループ毎にテーマに沿った体験の提案書、企画書を作成していきます。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア 国民衛生の動向（厚生統計協会） 上尾市ＨＰ：https://www.city.ageo.lg.jp/index.html	□筆記試験（　　%）　■レポート（ 100 %） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	レポート課題①地区踏査後に、人々の暮らしや、その暮らしと健康への影響について、考える内容 レポート課題②提案、企画に基づいた結果をレポートにまとめる
備考 （メッセージ）	「健康とは」「地域とは」を考えたり、実際に上尾市を調べたりすることで地域の健康への影響や、暮らしについて考える授業になります。地域に住む人々について考えます。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	地域・在宅看護論Ⅱ （概論）	1年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	在宅看護の基盤となる基本理念とその概要について理解する。
目標	1. 在宅療養者の対象者の特徴について説明できる。 2. 地域包括ケアシステムの概要と看護職の役割について説明できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			在宅看護の基盤 在宅看護の背景	講義
2			在宅看護の基盤 目的、役割・機能	講義
3			在宅看護と家族の支援 在宅看護の対象・在宅看護の場	講義
4			地域療養を支える制度① 社会資源の活用・介護保険	講義
5			地域療養を支える制度② 医療保険・後期高齢者医療制度・生活保護制度・難病法	講義
6			高齢者の保健医療福祉の動向 地域包括ケアシステム・地域包括支援センターの役割・多職種連携	講義
7			高齢社会における権利擁護 成年後見制度・高齢者虐待防止法・ノーマライゼーション・身体拘束	講義
8			介護予防及び在宅高齢者への看護 ヘルスプロモーション・在宅高齢者への地域での包括的継続的支援活動	講義
9			急性期治療やリハビリテーションを担う医療施設の特徴と看護 退院調整・チーム医療・地域医療連携	講義
10			地域包括ケアシステムにおける在宅看護 療養生活を支える福祉施設及び介護への適応	講義
11			訪問看護の実践 実際の活動・看護師の役割を考える	講義
12			事例から考える在宅看護 訪問看護ステーション訪問看護師より①終末期看護	講義
13			事例から考える在宅看護 訪問看護ステーション訪問看護師より②小児から高齢者まで	講義
14			事例から考える在宅医療 在宅医師より	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	教科書に目を通し、概要を把握すること。 資料も活用するため、整理し、復習すること。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア 国民衛生の動向（厚生統計協会）	■筆記試験（ 70 %） ■レポート（ 30 %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	看護に関係する法と制度や老年看護学・成人看護学その他の看護学にもつながる講義内容です。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	地域・在宅看護論Ⅲ （日常生活援助技術・マナー）	2年次	1単位 15時間	専任教員

目的	在宅看護の特徴を踏まえた日常生活援助技術について理解する。
目標	1.療養者に合った日常生活援助技術を計画できる。 2.療養者に合った日常生活援助技術が実践できる。 3.在宅看護の基本姿勢と訪問時のマナーについて説明できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			訪問看護の基本姿勢：訪問看護師としてのマナー	講義・演習
2			パーキンソン病療養者の理解 情報の整理/手順書作成	講義・演習
3			パーキンソン病療養者の日常生活援助技術① 活動に関する在宅看護技術	講義・演習
4			パーキンソン病療養者の日常生活援助技術② 飲食に関する在宅看護技術	講義・演習
5			パーキンソン病療養者の日常生活援助技術③ 排泄に関する在宅看護技術	講義・演習
6			パーキンソン病療養者の日常生活援助技術④ 清潔に関する在宅看護技術	講義・演習
7			パーキンソン病療養者の日常生活援助技術⑤ 清潔に関する在宅看護技術	演習
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	教科書に目を通し、概要を把握すること。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ在宅看護論②地域療養を支える技術 ＜参考図書＞写真でわかる訪問看護（インターメディカ）	■筆記試験（ 100 %） □レポート（ %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	訪問時のマナーについて学習します。また家にある物品で創意工夫をしケリーパッドなどを作成し演習に臨みます。「対象に合った援助」を考えることは基礎看護学実習にもつながります。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	地域・在宅看護論Ⅳ （在宅における医療ケア・看護技術）	2年次	1単位 30時間	専任教員

目的	安心した療養生活を支える医療ケアについて理解する。
目標	1.療養を支える医療ケアが安全に実施できる方法について説明できる。 2.療養を支える医療ケアを療養者及び家族が安全に実施するための支援について説明できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			ALS療養者の看護① 経管栄養法（胃ろう）	講義
2			ALS療養者の看護② 膀胱留置カテーテル	講義
3			ALS療養者の看護③ 非侵襲的陽圧換気療法	講義
4			ALS療養者の看護④ 災害時における在宅療養者	講義
5			ALS療養者の看護⑤ 経管栄養法（胃瘻）・膀胱留置カテーテル他	演習
6				演習
7			終末期の大腸がん療養者の看護① 安全と健康危機管理・服薬管理	講義
8			終末期の大腸がん療養者の看護② 在宅酸素療法	講義
9			終末期の大腸がん療養者の看護③ 人工肛門	講義
10			終末期の大腸がん療養者の看護④ 褥瘡予防	講義
11			終末期の大腸がん療養者の看護⑤ 中心静脈栄養	講義
12			終末期の大腸がん療養者の看護⑥ 褥瘡予防・人工肛門　他	演習
13				演習
14			透析療法を受ける人への看護	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	在宅生活でよくみられる看護技術について学習をします。もちろん病院内でも沢山出会う技術です。これらの技術を退院後も継続して行う場合、私達看護師は、本人もしくはご家族に指導をしていかなくてはなりません。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ在宅看護論②地域療養を支える技術 ナーシング・グラフィカ基礎看護技術 ナーシング・グラフィカ病態生理学	■筆記試験（ 100 %）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	医療ケアについて私たちが理解していないと療養者やご家族に指導することはできません。療養者や家族のセルフケアを目指すには何が必要か考えられるといいと思います。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	地域・在宅看護論Ⅴ （家族の看護）	３年次	1単位 15時間	専任教員 外部講師

目的	看護の対象者としての家族や家族支援について理解する。
目標	1.看護の対象として家族の特徴を捉えることができる。 2.在宅における療養者と家族の生活上の課題が検討できる。 3.事例を通して家族への支援について検討できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			家族とは 　家族の形態と機能　我が国の家族	講義
2			家族のとらえ方・理解 　家族をどのようにとらえるか	講義
3			家族の病気体験を理解する 　家族の病気のとらえ方・理解	講義
4			家族の病気体験を理解する 　家族の苦悩・情緒的反応・家族のニーズ	講義
5			家族と援助関係を形成する 　援助関係とは、看護者に求められる基本姿勢	講義
6			在宅で終末期を迎える患者の事例① 　家族の病気体験・家族像	講義
7			在宅で終末期を迎える患者の事例② 　援助関係の形成	講義
8			在宅で終末期を迎える患者の事例③ 　家族への看護アプローチ	講義

予習・復習	「家族」とはどういうものか、自分でも言葉に表現できるように考えて授業に臨んでください。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
家族看護学　家族のエンパワーメントを支えるケア	□筆記試験（　　%）　■レポート（100 %） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	その対象者の置かれている状況や疾患に応じて家族を考える時の視点について学習します。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	地域・在宅看護論Ⅵ （療養を支える多職種連携）	３年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	事例を通して在宅療養におけるケアマネジメントの特徴を理解する。
目標	1.在宅療養におけるケアマネジメントと看護の特徴を理解できる。 2.療養者の健康上・生活上のニーズをふまえ、総合的なアセスメントの視点が理解できる。 3.生活を支える制度・支援体制について理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			在宅における看護の考え方 ＩＣＦ・ＰＤＣＡサイクル	講義・演習
2			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護① 事例を理解する	講義・演習
3			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護② 事例を理解する	講義・演習
4			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護③ 看護上の問題を考える	講義・演習
5			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護④ 看護上の問題を考える	講義・演習
6			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護⑤ 看護上の問題を考える	講義・演習
7			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護⑥ 看護上の問題を考える	講義・演習
8			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護⑦ 看護上の問題を考える　家族に視点を当てる	講義・演習
9			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護⑧ 看護計画を考える	講義・演習
10			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護⑨ 看護計画を考える	講義・演習
11			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護⑩ 看護計画を考える	講義・演習
12			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護⑪ 支える制度・仕組みを理解する	講義・演習
13			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護⑫ 支える制度・仕組みを理解する	講義・演習
14			パーキンソン病の療養者に対する在宅看護⑬ 支える制度・仕組みを理解する	講義・演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅳの講義資料を見直しておくと良い。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア ＊地域・在宅Ⅰ～Ⅳの講義資料 ナーシング・グラフィカ社会福祉と社会保障	■筆記試験（ 100　%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	疾病や障害を持ちながら在宅で療養する対象やその家族を理解します。その方々に対する支援について考えていきます。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	地域・在宅看護実習Ⅰ	2年次	2単位 70時間	専任教員

目的	対象を支えるための地域包括ケアシステムのあり方を学び、住み慣れた地域での生活を支えるための看護実践能力を養う。
目標	1.疾病や障害を持ちながら生活している在宅療養者とその家族について理解できる。 2.対象に合った看護実践のために基礎看護技術を創意工夫していることを知り、実践できる。 3.地域包括ケアシステムにおける多職種の連携と看護が担うケアマネジメントを理解できる。

授業計画

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法 訪問看護ステーション実習：
療養者1名を受け持ち、療養者とその家族の1日の生活を捉え、情報を整理し家族の介護力を捉える。受け持ち療養者の看護上の問題について検討する。指導のもと、対象の持つ看護問題の中の一部を実践し評価する。
同行訪問として受け持ち以外の療養者を訪問し、訪問看護の対象理解や援助について理解を深めることができる。

実習期間　訪問看護ステーション2週間（70時間）

実習施設 訪問看護ステーション

予習・復習	実習要綱を熟読し、オリエンテーションには必ず出席をすること。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ在宅看護論②地域療養を支える技術 国民衛生の動向（厚生統計協会） ＜参考図書＞写真でわかる訪問看護（インターメディカ） 講義資料。その他学習に必要とされる教科書・参考書を活用。	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	訪問時のマナーや敬語の使い方など、利用者様のお宅に伺う上で最低限の振る舞いは身に付けておきましょう。
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	地域・在宅看護実習Ⅱ	3年次	2単位 70時間	専任教員

目的	対象を支えるための地域包括ケアシステムのあり方を学び、住み慣れた地域での生活を支えるための看護実践能力を養う。
目標	1.多様な場で働く看護師の役割を理解できる。 2.多様な場での多職種連携・協働を理解できる。 3.施設で生活する高齢者の生活について理解できる。

授業計画

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法 〈介護老人保健施設〉
・施設の中で働く看護師の役割について学習する。
・施設の中で行われる多職種との連携について学習する。
・地域の中で様々な資源を利用して生活している療養者をイメージする。
・施設と家族や他機関との連携する場面を見学する。
〈地域包括支援センター〉
・地域包括支援センターの職員より、様々な事例について説明を受け、それぞれに対する地域や家族の課題、地域の課題について考える。
・地域包括支援センターが担っている介護予防支援や地域密着型介護サービスについて説明を受ける。
〈入退院支援〉
・各病院退院支援室の看護師より、現在の取組や事例について説明を受ける。
・各病院での多職種カンファレンスに参加し各専門職の専門性や看護職の専門性について考える。
〈デイケア（通所リハビリテーション）〉
・デイケアで送迎から入浴やレクレーション、食事の実際に参加し地域で生活する高齢者の施設が果たす意味や役割について考える。
・多様な場面で働く看護師の役割について考える。

実習期間 介護老人保健施設32時間・学内8時間
地域包括支援ｾﾝﾀｰ4時間・入退院調整4時間・ﾃﾞｲｹｱ16時間・学内6時間

実習施設 介護老人保健施設
入退院調整
デイケア
地域包括支援センター

予習・復習	地域・在宅看護論、老年看護学等で学習した内容を復習し、制度や施設の役割、地域で生活することを想起しておく。 既習科目の復習をする。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ在宅看護論②地域療養を支える技術 ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	施設は高齢者が集団で生活しているため感染を拡大させないことに留意する。
備考 （メッセージ）	教員の引率がない実習になります。指導者や教員との連絡や相談をしっかり行い事故なく学びを深めましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

３）成人看護学

成人期は、大きく青年期・壮年期・中年期から向老期に区分される。この各期は、身体の発達と変化、身体機能の成熟と変化、生活様式の変化、役割機能の変化など顕著に生じることが特徴である。

また、人生のライフサイクルの中で最も長く、家族・社会の中で中心的役割を果たす。この時期の健康問題は、ストレスや役割に対応することができず、その事が原因で病気に至る人もいる。また、がんや生活習慣病などにより人生途中で中心的な役割を果たせない苦悩は大きい。したがって個人が病気になったきっかけや回復に向かうセルフケア能力を十分に知り支援をすることが求められる。

そのため、ヒューマンケアの考えを基盤に講義・演習・実習で臨床判断能力を養うと共に、多職種連携について学習する。

成人看護学Ⅰでは、幅広い成人期の特徴、多岐にわたる役割をもって社会生活を送っていることを理解する。そして、健康維持増進、疾病予防と支援システムについて学ぶ。また、生活習慣による疾病要因・疾病構造をとらえ、各健康レベルに応じた援助を学習する。

成人看護学Ⅱでは、何らかの慢性的な健康障害を持つ対象が、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけて過ごすのか、事例を通してセルフケア・セルフマネジメントを学習する。

成人看護学Ⅲでは、生命の危機状態にある急性期にある対象・家族の特徴やニーズを知り、その状態に応じた看護を地域におけるプレホスピタルケアからつながる継続看護について学習する。手術を受ける患者の事例を通し周手術期の看護の特徴を学び、急激な身体侵襲や術後合併症を防ぐための観察の視点と援助技術を習得する。

成人看護学Ⅳでは、自立し他者のケアも引き受ける成人期にある対象が、セルフケアが低下した状態に陥ると、それまでのセルフケアを見直し、再獲得する必要がある。事故や疾病により機能障害を持ちながら生活する対象者の看護について多職種連携を含むチーム医療を学習する。

成人看護学Ⅴでは、終末期や緩和ケアにおける対象と家族のケアを幅広く学ぶ。また、その状況に応じた看護の役割と援助方法を学習する。

成人看護学Ⅵでは、成人期にある対象の特徴を理解し、個別に応じた看護に必要な知識・技術・態度を統合し看護過程の展開を学習する。

急性期看護実習では、病棟実習において急性期にある対象を受け持ち、患者への看護過程を展開する。受け持ち患者の問題を抽出し患者に必要な看護の実践とその評価を行うことを学習する。

地域・多職種連携実習では、終末期にある対象とその家族の看護と救急看護について学習する。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	成人看護学Ⅰ （概論）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	成人期にある対象の特徴や健康課題を理解し、健康の保持・増進及び疾病の予防のための必要な看護援助を理解する。また、成人期の保健動向と保健対策について理解する。
目標	1.成人期における対象の特徴を理解できる。 2.成人期にある人が置かれている生活環境や医療環境を踏まえ、成人期の健康課題を理解できる。 3.成人期の特徴を踏まえ、健康の保持・増進及び疾病予防の必要性について理解できる。 4.成人期の特徴を踏まえ、健康の保持・増進及び疾病を予防するための健康教育について理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			成人期の理解 成人であるということ	講義
2			成長発達の特徴① 成人の成長発達　成人の役割	講義
3			成長発達の特徴② 成人各期の健康問題	講義
4			身体機能の特徴と看護 生活習慣・生活行動による影響 成人の生活 多様性による生活への影響・成人各期における生活の特徴	講義
5			健康観の多様性と看護 個人の健康観に影響を及ぼす要因・健康レベルからみた保健行動	講義
6			学習の特徴と看護 おとなの学びの特徴・成人教育学の概念	講義
7			成人期にみられる健康障害① 生活習慣に関連する健康障害・生活習慣病の発生要因と対応	講義
8			成人期にみられる健康障害② 職業に関連する健康障害・生活ストレスに関連する健康障害	講義
9			成人への看護に有用な概念① セルフケア・ 危機・自己効力	講義
10			成人への看護に有用な概念② ヘルスプロモーション	講義
11			成人期に特徴的な健康問題と基本的アプローチ① 健康教育シミュレーション	講義・演習
12			成人期に特徴的な健康問題と基本的アプローチ② 健康教育シミュレーション	演習
13			成人期に特徴的な健康問題と基本的アプローチ③ 健康教育シミュレーション	演習
14				演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：指定のテキストや資料を読み込む（30分） 復習：授業の不明な点を解決する（調べ学習など）

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ成人看護学①成人看護学概論 ナーシング・グラフィカ成人看護学②健康危機状況／セルフケアの再獲得 ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント 国民衛生の動向（厚生統計協会）	■筆記試験（　60%）　■レポート（　40%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	毎回の提出物が評価点になります。欠席の場合は減点対象となります。 13～14回目の健康教育シミュレーションは発表会を行います。
備考 （メッセージ）	「発達とライフステージ」が関連する科目です。成人期の発達の考え方を活用していきます。 また、この後の成人看護学科目の基盤となる科目です。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	成人看護学Ⅱ （セルフマネジメント）	2年次	1単位 30時間	専任教員

目的	慢性疾患など生涯にわたりコントロールが必要となる成人期における対象と家族の特徴やニーズを学びその状況に応じた看護の特徴を理解する
目標	1. 慢性期にある対象の特徴について理解できる。 2. 慢性期における代表的な治療と日常生活に必要な看護援助について理解できる。 3. 慢性期にある対象とその家族に起こりやすい健康課題と看護の特徴が理解できる。 4. セルフマネジメントの必要性について理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			セルフマネジメントを支える諸理論① セルフマネジメントとは	講義
2			セルフマネジメントを支える諸理論② セルフマネジメントのための主要概念	講義
3			セルフマネジメントのための対象理解① コンプライアンスとアドヒアランス・健康信念モデル	講義
4			セルフマネジメントのための対象理解② 成人教育学・エンパワメントモデル・自己効力理論	講義
5			セルフマネジメントを推進する看護方法：セルフマネジメントの過程① 対象理解	講義
6			セルフマネジメントを推進する看護方法：セルフマネジメントの過程② 援助方法	講義
7			セルフマネジメントを目指す看護① 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援	講義・演習
8			セルフマネジメントを目指す看護② 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援	講義・演習
9			セルフマネジメントを目指す看護③ 腎不全とともに生きるセルフマネジメント支援	講義
10			セルフマネジメントを目指す看護④ 慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント支援	講義
11			セルフマネジメントを目指す看護⑤ 肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援	講義
12			セルフマネジメントを目指す看護⑥ 慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援	講義
13			セルフマネジメントが必要な健康課題を持つ成人の看護援助① 肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援	演習
14			セルフマネジメントが必要な健康課題を持つ成人の看護援助② 肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援　（発表）	演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：指定のテキストや資料を読み込む（30分） 復習：授業の不明な点を解決する（調べ学習など）

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ成人看護学①成人看護学概論 ナーシング・グラフィカ成人看護学②健康危機状況／セルフケアの再獲得 ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護①呼吸器、 疾患と看護②循環器 疾患と看護⑧腎／泌尿器／内分泌・代謝	■筆記試験（ 100 %）　■レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	演習は、事例を用いて看護を考える内容です。 8回目の「糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援」では自己血糖採血の演習を実施します。
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	成人看護学Ⅲ （健康危機状況・周手術期看護）	2年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	急性期(救急看護・周手術期)にある成人期における対象やその家族の特徴やニーズを学び、その特徴に応じた看護を理解する。
目標	1.急性期にある対象の特徴が理解できる。 2.急性期の代表的な治療・処置・主要症状と看護について理解できる。 3.急性期にある対象と家族の看護の特徴について理解できる。 4.救急看護の特徴について理解できる。 5.周手術期の看護の特徴について理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			健康危機状況にある成人の理解 危機理論・代表的な健康危機状況と看護の特徴	講義
2			健康危機状況にある成人の看護① 救急看護：看護体制と看護の展開	講義
3			健康危機状況にある成人の看護② プレホスピタルケア・緊急入院患者・救急搬送患者	講義
4			健康危機状況にある成人の看護③ ICU・CCU入室患者・ME機器管理	講義
5			周術期の基礎知識と生体の変化 外科的侵襲から回復期の生体反応	講義・演習
6			手術過程に応じた看護支援① 術前の看護	講義・演習
7			手術過程に応じた看護支援② 術中の看護	講義・演習
8			手術過程に応じた看護支援③ 術後合併症予防と発症時の援助/術後の継続看護	講義・演習
9			呼吸器系に障害のある成人の手術と看護 肺癌・開胸術の看護	講義・演習
10			循環器系に障害のある成人の手術と看護 狭心症/心臓弁膜症・開心術の看護	講義
11			消化代謝系に障害のある成人の手術と看護 胃癌/大腸癌・開腹術/腹腔鏡下手術の看護	講義
12			術後合併症予防のための看護援助① フィジカルアセスメント技術	演習
13			術後合併症予防のための看護援助② フィジカルアセスメント技術	演習
14			術後合併症予防のための看護援助③ フィジカルアセスメント技術	演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ成人看護学①成人看護学概論 ナーシング・グラフィカ 成人看護学②健康危機状況／セルフケアの再獲得 ナーシング・グラフィカ成人看護学④周術期看護 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護①呼吸器、疾患と看護②循環器 疾患と看護③消化器 系看　別巻　救急看護学 看護がみえるvol.2 臨床看護技術 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント	■筆記試験（ 100%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	演習は、事例を用いて看護を考える内容です。
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	成人看護学Ⅳ （セルフケアの再獲得・ リハビリテーション看護）	2年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	障害を持ち生活をする、慢性期に移行する可能性がある回復期の成人期における対象やその家族の特徴やニーズに応じた看護を理解する。また、セルフケアを再獲得するための必要性を学び、看護の特徴を理解する。
目標	1.回復期にある対象の特徴を理解できる。 2.回復期の代表的な治療・処置・主要症状と看護について理解できる。 3.回復期にある対象と家族の看護の特徴について理解できる。 4.セルフケアの必要性について理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			セルフケアの再獲得① セルフケアの低下状態にある成人の理解	講義
2			セルフケアの再獲得② 障害受容・心理/社会的なアセスメントと援助・コーピング	講義
3			セルフケア再獲得を必要とする成人への看護 セルフケア低下状態のアセスメント・セルフケア再獲得を支援するシステム	講義
4			生活の再構築へのアセスメントと援助① 生活の再構築とは・ICF に基づくアセスメント	講義
5			生活の再構築へのアセスメントと援助② 生活の再構築のための支援・災害時のセルフケア	演習
6			リハビリテーションとは リハビリテーションの目的・リハビリテーションの領域・国際的な障害分類	演習
7			リハビリテーション看護とは ノーマライゼーション・チームアプローチと看護の役割・多職種連携	講義
8			セルフケア再獲得を目指す成人への看護① 生活基本行動レベルのセルフケアの再獲得　脳出血回復期にある人の看護	講義
9			セルフケア再獲得を目指す成人への看護② 社会生活に戻るためのセルフケアの再獲得　脊髄を損傷した人の看護	講義・演習
10			セルフケア再獲得を目指す成人への看護③ 社会生活に戻るためのセルフケアの再獲得　脊髄を損傷した人の看護	講義・演習
11			セルフケア再獲得を目指す成人への看護④ 白血病の看護	講義
12			セルフケア再獲得を目指す成人への看護⑤ 急性心筋梗塞患者の看護	講義
13			セルフケア再獲得を目指す成人への看護⑥ 下肢切断・関節リウマチ患者の看護	講義
14			セルフケア再獲得を目指す成人への看護援助 ストーマ造設を持つ患者の援助技術	演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習：指定のテキストや資料を読み込む（30分） 復習：授業の不明な点を解決する（調べ学習など）

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ成人看護学①成人看護学概論 ナーシング・グラフィカ成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得 ナーシング・グラフィカ成人看護学⑤リハビリテーション看護 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護①呼吸器、疾患と看護②循環器 ナーシング・グラフィカEX　疾患と看護④血液／アレルギー・膠原病／感染症、疾患と看護⑤脳・神経 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護⑦運動器	■筆記試験（　100%）　■レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	演習は、事例を用いて看護を考える内容です。
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	成人看護学Ⅴ （終末期看護・緩和ケア）	2年次	1単位 15時間	専任教員 外部講師

目的	生命倫理や人間の尊厳など、現代医療をふまえて、成人期における対象とその家族のニーズに応じた終末期看護の特徴について理解する。
目標	1.終末期にある対象の特徴について理解できる。 2.終末期の経過をたどる患者の治療に伴う看護、症状コントロールについて理解できる。 3.終末期にある対象を支える家族の援助について理解できる。 4.対象の死の受容過程、全人的痛みについて理解し、緩和ケアについて理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			緩和ケア概論 全人的苦痛とQOL/緩和ケアの歴史と現状/がん医療制度・緩和ケアにおける看護倫理/死の受容過程	講義
2			意思決定とコミュニケーション・臨死期のケア・家族ケア がん医療の意思決定・がん終末期の症状と全身状態・看護の対象としての家族	講義
3			身体症状とその治療・看護① 身体症状のマネジメント・がん疼痛・全身倦怠感・消化器症状	講義
4			身体症状とその治療・看護② 呼吸困難・リンパ浮腫・がん治療に伴う苦痛の緩和	講義
5			精神症状とその治療/看護・社会的ケア・スピリチュアルケア 不安・抑うつ・社会的苦痛・スピリチュアルペイン	講義
6			対象の理解 がんサバイバーからの経験談をもとに緩和ケア・がん看護への関心を高める	講義
7			非がん疾患の緩和ケア 非がん疾患の緩和ケアの特徴	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	予習：指定のテキストや資料を読み込む（30分） 復習：授業の不明な点を解決する（調べ学習など）

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ成人看護学①成人看護学概論 ナーシング・グラフィカ成人看護学⑥緩和ケア ナーシング・グラフィカEX疾患と看護①呼吸器、疾患と看護②循環器 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護⑤脳・神経、疾患と看護⑦運動器 ナーシング・グラフィカEX疾患と看護⑧腎／泌尿器／内分泌・代謝	■筆記試験（　100%）　■レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	成人看護学Ⅵ （事例を用いた看護）	2年次	1単位 15時間	専任教員

目的	臨床判断能力の基礎を養い、成人期における対象の看護過程の展開を理解する。
目標	1.事例の患者に必要な観察方法を科学的根拠に基づき判断することができる。 2.事例の患者の状況に合わせた看護援助方法を判断することができる。 3.事例を通して、成人期にある対象の特徴をふまえた一連の看護過程の展開が理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			事例に基づいた看護過程の展開① クリティカルシンキング、PDCA、対象看護のための事前学習	講義
2			事例に基づいた看護過程の展開② 常在条件、病理的状態に基づく情報の整理、基本的欲求の状態を情報収集	講義・演習
3			事例に基づいた看護過程の展開③ 分析・解釈・看護問題の抽出	講義・演習
4			事例に基づいた看護過程の展開④ 分析、解釈・看護問題の抽出	講義・演習
5			事例に基づいた看護過程の展開⑤ 関連図の作成　看護問題の明確化　看護問題の抽出	講義・演習
6			事例に基づいた看護過程の展開⑥ 看護計画立案	講義・演習
7			事例に基づいた看護過程の展開⑦ 実践の評価	講義・演習
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	予習：指定のテキストや資料を読み込む（30分） 復習：アセスメントなど指示内容に取り組む（1時間）

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
別途案内	■筆記試験（100%）　■レポート（　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	基礎看護学、老年看護学の学習が基盤となります。
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	急性期看護実習	3年次	2単位 80時間	専任教員

目的	急性期にある対象の看護問題に対し必要な看護実践能力を養う。
目標	1.急性期にある対象の特徴を理解し、生命維持回復への援助ができる。 2.対象者の自立に向けた看護援助を実践できる。 3.対象を通して、他職種の役割と連携の実際を知り、必要性を理解できる。 4.自ら学んだ成果を振り返り記述することができる。

授業計画

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法 急性期病棟の患者を1名受け持ち、ヘンダーソン理論を基に情報収集をする。
抽出された看護問題の成果を明確にし、看護計画、実施、評価、修正の一連のプロセスを展開する。
患者を1名受け持ち、Ｖ．ヘンダーソンの理論を基本に考えた常在条件、病理的状態、基本的ニードについて情報を収集する。指導のもとに、対象のもつ看護問題を明確化、看護計画、実施、評価、修正の一連のプロセスを展開する。

実習期間 3週間

実習施設 上尾中央総合病院・彩の国東大宮メディカルセンター など

3週間　80時間

予習・復習	病棟実習に必要な事前学習は必ず行い、実習に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
学習に必要なあらゆる分野の教科書を活用する。 特に実習する病棟の特殊性を基に、対象疾患とその看護を事前学習できるよう、既習の講義のテキスト、資料を活用すること。	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	地域・多職種連携実習	3年次	2単位 80時間	専任教員

目的	看護の対象者とその家族の終末期看護を理解する。また、地域の救急医療体制および病院内の救急看護における多職種連携を知り，様々な看護について理解する。
目標	1.終末期にある対象の特徴と看護を理解できる。 2.地域におけるプレホスピタルケアを理解できる。 3.救急看護の特徴を多職種連携の視点で理解できる。 4.救急医療・生命・継続看護について考え学びを記述できる。

授業計画

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法 実習を通して全てのライフステージ及び地域で生活する対象者の実習を行う。
消防署・ICU・救急外来・OPE室では見学実習を行う。
終末期実習では対象者とその家族の看護を考える。

実習期間 3週間

実習施設 上尾中央総合病院・彩の国東大宮メディカルセンター　など

予習・復習	

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

４）老年看護学

人口の少子高齢化・医療の高度化および専門分化が進み、人々の生活のあり方や高齢者医療など新たな課題が生じている。老いて生きる人々の生活とそれを取り巻く社会の視点で、地域で生活する高齢者や生活機能障害をもつ高齢者の健康と生活を支える看護が必要とされている。老年看護の実践の場は病院・施設・地域・在宅へと広がっており、多職種で連携を図り看護の専門性を発揮していくことが求められている。人間としての尊厳を守り、倫理的視点を持ち、対象とかかわり、さまざまな場で、高齢者の自立を高める看護を提供するための学習をする。

老年看護学Ⅰでは、老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面の特徴や老化に伴う変化を学習する。また世界および我が国の高齢化の動向を知り、高齢化が社会に及ぼす影響、高齢社会における社会保障制度の動き中での看護の役割を学習する。

老年看護学Ⅱでは、事例を通して、高齢者に看護を提供するために必要な論理的思考を学習する。看護問題を明確にし看護計画を立案する。この学習を臨地実習で活用していく。

老年看護学Ⅲでは、老化に伴う身体的・精神的機能の変化を踏まえた上で高齢者の生活機能の変化と看護を学習する。

老年看護学Ⅳでは、終末期を含め、治療をうける高齢者の看護を学習する。

回復期看護実習では、疾病からの回復期にある対象の特徴及び加齢変化を理解し、日常生活の再構築に向け、対象とその家族に応じた看護実践を学習する。

慢性期看護実習では、慢性疾患をもつ対象の健康障害による生活機能の変化及び加齢変化を理解し、対象とその家族に応じた看護実践を学習する。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	老年看護学Ⅰ（概論）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	高齢者を取り巻く社会的背景や老化を学び高齢者の生活について理解する。
目標	1.老年期をライフサイクルの流れの中で説明できる。 2.高齢者に関する統計的特徴を説明できる。 3.高齢者のQOLとは何かについて説明できる。 4.高齢者を支える社会制度について説明できる。 5.老化現象について説明できる。 6.高齢者の倫理や発達課題について説明できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			ライフサイクルからみた高齢者の理解① 加齢と老化・老化理論・サクセスフルエイジング	講義
2			ライフサイクルからみた高齢者の理解② 高齢者の生活史を知る・ライフヒストリー	講義
3			ライフサイクルからみた高齢者の理解③ 高齢者の生活史を知る・ライフヒストリー	講義
4			健康指標からみた高齢者の理解 平均寿命・健康寿命・人口の高齢化率（諸外国との比較）・有訴者・死亡率・死因・死亡場所	講義
5			加齢に伴う社会的機能の変化 家族・住まい・経済状態・世帯・雇用・収入・生計	講義
6			高齢者とQOL 社会参加（役割の変化・就労・地域社会への参加）	講義
7			加齢に伴う変化① 循環器系・呼吸器系・外皮系・運動器系	講義
8			加齢に伴う変化② 内分泌系・免疫系・造血器系・消化器系・腎、泌尿器・生殖器系	講義
9			加齢に伴う変化③ コミュニケーション（感覚器系）・知能・神経系・セクシャリティ	講義
10			高齢者が生活する場（多職種連携） ライフサイクルに応じた生活の場・病気の治療と介護に伴う生活の場・継続看護の必要性	講義
11			高齢者を支える制度と社会資源 介護保険・高齢者医療確保法・ノーマライゼーション・成年後見制度・日常生活自立支援事業	講義
12			高齢者看護における倫理 高齢者の自己決定・虐待・身体拘束（行動制限）	講義
13			高齢者看護にかかわる諸理論① 老年期の発達課題	講義
14			高齢者看護にかかわる諸理論② エイジズム・エンパワメント・ストレングス・コンフォート理論・アドボカシー	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	専門基礎科目、基礎看護学の講義内容及びテキスト等に目を通し、知識の整理をしておく。 周りの高齢者に日頃から関心をもち、新聞やニュースから社会の動きを知る。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害 ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践 生涯人間発達論 ナーシング・グラフィカ①解剖生理学 国民衛生の動向	■筆記試験（　70%）　■レポート（　30%） □実技試験（　　%）　■授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	課題の内容については授業内で詳細は伝えるので積極的に取り組みましょう。 解剖生理学を復習しておくことで老化現象は理解しやすくなります。
備考 （メッセージ）	「発達とライフステージ」「保健環境論」の老年期の発達の考え方や老年期に関するの保健統計等を用いながら進めていきます。また、この後の老年看護学Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの基本となっていく科目です。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	老年看護学Ⅱ （事例を用いた看護）	2年次	1単位 30時間	専任教員

目的	事例を通して看護実践のための看護過程を理解する。
目標	1.情報の分類が説明できる。 2.対象の身体的・精神的・社会的状況を理解し科学的根拠に基づいて情報の分析できる。 3.看護上の問題を明確にできる。 4.生活機能障害のある高齢者に対し、尊厳を踏まえ、強みを生かした援助を計画できる。 5.高齢者と家族に焦点を当てた援助を計画できる。 6.立案した看護計画を評価できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			事例に基づいた看護過程の展開① PDCA・クリティカルシンキング・事例紹介	講義・演習
2			事例に基づいた看護過程の展開② 情報の整理・分析	講義・演習
3			事例に基づいた看護過程の展開③ 情報の整理・分析	講義・演習
4			事例に基づいた看護過程の展開④ 患者の入院生活の場面を観察し、記録する	講義・演習
5			事例に基づいた看護過程の展開⑤ 情報の整理・分析	講義・演習
6			事例に基づいた看護過程の展開⑥ 関連図	講義・演習
7			事例に基づいた看護過程の展開⑦ 関連図	講義・演習
8			事例に基づいた看護過程の展開⑧ 看護問題の明確化・期待される結果の設定	講義・演習
9			事例に基づいた看護過程の展開⑨ 看護計画の立案	講義・演習
10			事例に基づいた看護過程の展開⑩ 立案した看護計画を基に援助を実践する	講義・演習
11			事例に基づいた看護過程の展開⑪ 看護経過記録・看護計画の評価、修正	講義・演習
12			事例に基づいた看護過程の展開⑫ 立案した看護計画を基に援助を実践する	講義・演習
13			事例に基づいた看護過程の展開⑬ 看護経過記録・看護計画の評価、修正	講義・演習
14			事例に基づいた看護過程の展開⑭ 看護サマリー	講義・演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	基礎看護学［看護の理論と実践］を復習し情報の整理・分析をできるようにしておく。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害 ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践 生涯人間発達論 ナーシング・グラフィカ①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ③病態生理学 ナーシング・グラフィカ　基礎看護学③基礎看護技術	■筆記試験（　50%）　■レポート（　50%） □実技試験（　　%）　■授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	解剖生理学や病理学等の既習科目の復習をして知識を整理しておきましょう。 演習内容はグループで工夫するためメンバーの意見交換を十分に行いましょう。
備考 （メッセージ）	老年看護学Ⅰで学習した老化現象が高齢者の生活にどのような影響を及ぼすのか知り、それに対するセルフケア指導や支援方法を考えていきます。テキスト以外の本も参考にしてより良い支援を考えましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	老年看護学Ⅲ （高齢者の生活を支える看護）	2年次	1単位 30時間	専任教員

目的	加齢によって生じる高齢者の生活の変化と支援方法が理解する。
目標	1.加齢に伴う身体状態の変化に関連する起こりやすい症状について説明できる。 2.高齢者を取り巻く環境を含めて対象の状態を包括的にアセスメントする視点が説明できる。 3.加齢に伴って生じる生活の変化について分析できる。 4.加齢に伴って生じる生活の変化に対する支援方法を説明できる。 5.高齢者の災害時におけるリスクと支援のあり方について説明できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			高齢者のヘルスプロモーション フレイル（サルコペニア）・健康づくり（対策の変遷・保健事業） 介護予防（生活　習慣病予防・転倒予防・認知症予防・健康増進プログラム）	講義
2			高齢者疑似体験	演習
3				演習
4			高齢者の生活機能と評価① バイタルサインの特性・CGA・ADL評価・精神心理機能の評価・社会経済に関する評価・ICF	講義
5			高齢者の生活を支える看護① 食生活・食生活を支える看護　（摂食嚥下）	講義
6			高齢者の生活を支える看護② 食生活・食生活を支える看護　（栄養状態）	講義
7			高齢者の生活を支える看護③ 食生活・食生活を支える看護　（経鼻胃管の挿入・栄養剤の滴下）	演習
8			高齢者の生活を支える看護④ 歩行・移動を支える看護	講義
9			高齢者の生活を支える看護⑤ 排泄を支える看護	講義
10			高齢者の生活を支える看護⑥ 清潔・衣生活を支える看護	講義
11			高齢者の生活を支える看護⑦ 活動と休息を支える看護	講義
12			高齢者の生活を支える看護⑧ コミュニケーションを支える看護	講義
13			高齢者の生活を支える看護⑨ 高齢者に特徴的な症状（脱水・浮腫）	講義
14			高齢者のリスクマネジメント 災害時のリスク	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	人体の構造と機能の講義資料及びテキスト等、基礎看護の日常生活援助を復習し、知識の整理をしておく。 老年看護学Ⅰの老化現象について知識を整理しておく。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害 ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践 生涯人間発達論 ナーシング・グラフィカ①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ③病態生理学 ナーシング・グラフィカ　基礎看護学③基礎看護技術	■筆記試験（　70%）　■レポート（　30%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	解剖生理学や病理学等の既習科目の復習をして知識を整理しておきましょう。 演習内容はグループで工夫するためメンバーの意見交換を十分に行いましょう。
備考 （メッセージ）	老年看護学Ⅰで学習した老化現象が高齢者の生活にどのような影響を及ぼすのか知り、それに対するセルフケア指導や支援方法を考えていきます。テキスト以外の本も参考にしてより良い支援を考えましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	老年看護学Ⅳ （治療を受ける高齢者の看護）	2年次	1単位 15時間	専任教員 外部講師

目的	疾患を持ち、治療を受ける高齢者の看護について理解する。
目標	1.高齢者の薬物療法・検査・手術療法における看護について説明できる。 2.高齢者がかかりやすい疾病において患者の特徴、病態、看護について説明できる。 3.認知症の病態、認知症高齢者へのケアと家族への支援について説明できる。 4.終末期にある高齢者や家族への関わりについて自己の考えを述べることができる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			治療を受ける高齢者の看護① 薬物療法を受ける高齢者への看護ケア	講義
2			治療を受ける高齢者の看護② 検査・手術療法	講義
3			治療を受ける高齢者の看護③ 骨粗鬆症・骨折・感染症	講義
4			認知症・うつ病・せん妄の看護 認知症対策の動向と制度・認知症・うつ病・せん妄の理解（定義・原因・症状）・診断、治療	講義
5			認知症高齢者の看護① 認知症の症状の理解とその援助・療法的アプローチ	講義
6			認知症高齢者の看護② 急性期病院での看護・認知機能の評価方法・認知症高齢者を取り巻く人々へのアプローチ	講義
7			終末期の看護 高齢者の終末期看護について考える	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害 ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践 ナーシング・グラフィカ①解剖生理学 ナーシング・グラフィカ③病態生理学	■筆記試験（100%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	専門基礎で学習した解剖生理や各種の病態、老年看護学Ⅰ・Ⅱで得た知識を踏まえたうえで症状や治療に対する看護を考えていきます。様々な知識を集めて考える必要があります。
備考 （メッセージ）	国家試験では出題頻度が高い項目となります。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	回復期看護実習	3年次	2単位 80時間	専任教員

目的	回復過程にある対象を理解し、対象とその家族に応じた看護実践能力を養う。
目標	1.対象の健康障害を踏まえた援助が実践できる。 2.対象の生活機能を把握し、その人の課題を明確にして、日常生活の再構築に向けた援助が実践できる。 3.対象が身につけてきた生活習慣や価値基準を考慮し、その人らしさを生かした援助が実践できる。 4.継続看護の必要性と社会資源を活用した支援について説明できる。

授業計画

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法 ・1名の患者を受け持つ。
・受け持ち患者の情報収集をし、アセスメントし、看護過程を展開する。
・その日の状態を的確に観察し、症状に応じた看護を実践する。
・症状の緩和及び回復を促進すための看護を実践する。
・1日の実習行動計画を臨床指導者に報告して指導を受ける。
・受け持ち患者の看護実践するために、臨床スタッフに相談、指導を受けるなど病棟と連携しながら実習する。
・週間スケジュールに従って実習を進める。
・毎日のカンファレンスで実習の振り返りをしメンバー間で学びの共有をする。
・実習記録にある患者情報が漏洩することの無い様に、ファイルに綴じ実習病棟の所定の場所に置く。メモ帳はコイルを使用して体から離さない。

実習期間 3週間

実習施設 上尾中央総合病院など

予習・復習	講義で作成した高齢者の加齢変化の学習を持参して受け持ち患者の老化現象の個別性を確認する。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
テキストは特に指定しない。 学習に必要なあらゆる分野の教科書を活用する。	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	実習前から健康状態を整え、特に感染症の予防に努めて実習に臨む。 患者の安全の為に、報告、連絡、相談を行う。
備考 （メッセージ）	授業の内容を想起して臨みましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	慢性期看護実習	3年次	2単位 80時間	専任教員

目的	慢性疾患を持つ対象を理解し、対象とその家族に応じた看護実践能力を養う。
目標	1.疾病や治療を理解し、慢性的な経過が日常生活に及ぼす影響を理解する。 2.対象の生活機能を把握し、健康状態の回復や維持に向けた援助が実践できる。 3.対象が疾病と付き合いながらも、安定した生活が送れるよう支援できる。 4.対象の日常生活を考え、地域社会とのつながりや社会資源を活用した支援について説明できる。

授業計画

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法 ・1名の患者を受け持つ。
・受け持ち患者の情報収集をし、アセスメントし、看護過程を展開する。
・その日の状態を的確に観察し、症状に応じた看護を実践する。
・症状の緩和及び生活機能の維持に向けた看護を実践する。
・1日の実習行動計画を臨床指導者に報告して指導を受ける。
・受け持ち患者の看護実践するために、臨床スタッフに相談、指導を受けるなど病棟と連携しながら実習する。
・週間スケジュールに従って実習を進める。
・毎日のカンファレンスで実習の振り返りをしメンバー間で学びの共有をする。
・実習記録にある患者情報が漏洩することの無い様に、ファイルに綴じ実習病棟の所定の場所に置く。メモ帳はコイルを使用して体から離さない。

実習期間 3週間

実習施設 上尾中央総合病院など

＊祝日がある場合は後ろにずれる。

予習・復習	講義で作成した高齢者の加齢変化の学習を持参して受け持ち患者の老化現象の個別性を確認する。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
テキストは特に指定しない。 学習に必要なあらゆる分野の教科書を活用する。 患者の安全の為に、報告、連絡、相談を行う。	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	実習前から健康状態を整え、特に感染症の予防に努めて実習に臨む。 患者の安全の為に、報告、連絡、相談を行う。
備考 （メッセージ）	授業の内容を想起して臨みましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

５）小児看護学

子どもを取り巻く社会環境の複雑化に伴い、子どもの疾病構造や小児医療・看護も変容してきた。特に少子化・核家族化・母親の就業などによる家族機能の縮小、在宅ケア利用者が増加している。地域における子育て支援や医療的ケア児の支援体制も整備されてきている。一方、小児医療の現場では重症化・高度化の一途をたどるという問題も生じている。すべての子どもが健全な成長・発達を遂げられるよう、子どもと家族を支援するために必要な基本的知識を学習する。

小児看護学Ⅰでは、小児を取り巻く社会の変化に関心をもてることと、対象である子どもとその家族について学ぶ。またバイタルサイン測定時のディストラクション、プレパレーションに使用する玩具などを作成し、子どもの力を引き出す援助を学習する。

小児看護学Ⅱでは、健康障害をもつ子どもと家族の状況や健康障害が及ぼす影響を理解し、症状や状況に合わせたかかわりを学習する。また、特別な状況にある子どもと家族への影響を理解し、状況に合わせたかかわりを学習する。

小児看護学Ⅲでは、小児に特有な疾患をもつ子どもと家族の状況や健康障害が及ぼす影響を理解し、看護実践方法を学習する。小児特有の看護技術を実践し、臨床判断能力を養う。事例を通して小児看護の看護過程の特徴を学習する。

小児看護学Ⅳでは、様々な立場で子どもの健康を支えている多職種連携や小児看護学実習にむけて倫理の視点を育み、実践時に大切にしたいことを検討する。

小児看護学実習では、成長発達し続ける子どもとその家族を理解し、最善の利益を目指した看護実践能力を養うと共に、多職種連携について学習する。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	小児看護学Ⅰ （概論）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	小児看護で用いられる理論や成長発達を学び、小児看護の実践の基盤を理解する。
目標	1. 小児看護の対象である子どもと家族の特徴について説明できる。 2. 健康な子どもの発達段階の特徴と生活行動の発達、基本的生活習慣形成への支援について説明できる。 3. 子どもと家族を取り巻く社会の変化に関心をもち、小児看護の課題について説明できる。 4. 子どもの持っている力を引き出す援助を理解し実践できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			**ガイダンス** 小児看護学で用いられる概念① 小児看護とは/小児看護の歴史と意義/子どもの権利と看護	講義・演習
2			小児看護学で用いられる概念② 子どもと家族を取り巻く社会資源の活用	講義・演習
3			小児看護における倫理 小児看護における倫理的配慮	講義・演習
4			子どもの成長・発達と看護① 成長発達の理解に役立つ基礎的理論**※子どもの成長発達カレンダー**	講義・演習
5			子どもの成長・発達と看護② 乳児期の子どもの成長・発達と生活の援助	講義・演習
6			子どもの成長・発達と看護③ 幼児期の子どもの成長・発達と生活の援助	講義・演習
7			子どもの成長・発達と看護④ 幼児期の子どもの成長・発達と生活の援助	講義・演習
8			子どもの成長・発達と看護⑤ 学童期と思春期の子どもの成長・発達と生活の援助	講義・演習
9			小児をめぐる衛生統計 子どもの安全への支援	講義・演習
10			子どもの遊びとその意義 遊びによる発達促進とコミュニケーション	講義・演習
11			子どものフィジカルアセスメントに必要な基礎知識 バイタルサイン測定	講義・演習
12			子どもの力を引き出す援助① バイタルサイン測定時のディストラクション、プレパレーションで使うおもちゃなどの作成	演習
13			子どもの力を引き出す援助② バイタルサイン測定時のディストラクション、プレパレーションで使うおもちゃなどの作成	演習
14			子どもの力を引き出す援助③ グループワークの発表**（クラス別）**	演習
15			**単位認定試験・まとめの会**	

予習・復習	発達とライフステージの学習を復習すると理解がしやすい。 各期の発達を『発達カレンダー』に随時整理し、復習するとよい。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 ナーシング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術 ナーシング・グラフィカ小児看護学③小児の疾患と看護 生涯人間発達論 ＜参考図書＞　育児書関係　子ども白書　子ども子育て白書	■筆記試験（ 50 %）　■レポート（ 50 %） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	子どもが身近にいないかもしれませんが、私たちの周りには実は子どもがいます。 関心を寄せて子どもたちをぜひ知っていきましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	小児看護学Ⅱ （子どもの症状・状況に応じた看護）	1年次	1単位 15時間	専任教員

目的	症状や状況に応じた、健康障害をもつ小児と家族の看護を理解する。
目標	1.健康を害することが子どもや家族にとってどのような体験なのか説明できる。 2.健康障害の経過における子どもと家族の特徴と、発達段階に応じた看護の方法を説明できる。 3.特別な状況にある子どもと家族の特徴と、発達段階に応じた看護の方法を説明できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			健康障害をもつ子ども・家族への看護① 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 外来における子どもと家族への看護	講義・演習
2			健康障害をもつ子ども・家族への看護② 急性期にある子どもと家族への看護『発熱・けいれん』	講義・演習
3			健康障害をもつ子ども・家族への看護③ 急性期にある子どもと家族への看護『嘔吐・下痢・脱水』	講義・演習
4			健康障害をもつ子ども・家族への看護④ 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 手術を受ける子どもと家族への看護	講義・演習
5			健康障害をもつ子ども・家族への看護⑤ 慢性期・終末期にある子どもと家族への看護『小児緩和ケア』	講義・演習
6			健康障害をもつ子ども・家族への看護⑥ ハイリスク新生児と家族への看護	講義・演習
7			特別な状況にある子ども・家族への看護(多職種連携) 災害を受けた子どもと家族への看護	講義・演習
8			**単位認定試験・まとめの会**	

予習・復習	専門基礎分野で学んだ解剖生理や疾患についての知識をもとに、小児の特徴を学ぶ。 また、発達とライフステージや小児看護学Ⅰで学んだ成長発達が基盤となる。 この講義の内容をノート等にまとめておくことが、実習や国家試験にもつながる。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 ナーシング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術 ナーシング・グラフィカ小児看護学③小児の疾患と看護	■筆記試験（ 80 %） ■レポート（ 20 %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	子どもが病院で過ごすイメージができるよう、視聴覚教材や雑誌を活用してみましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	小児看護学Ⅲ （病気の子どもの看護）	2年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	事例を通して小児各期特有の疾患の小児と家族の看護を理解する。
目標	1.小児に特有な疾患をもつ子どもと家族の状況を理解し、看護実践方法について説明できる。 2.健康障害をもつ子どもと家族への看護について、基本的な考え方や理論に基づき、看護が実践できる。 3.小児特有の看護技術を実践し、臨床判断能力を養う。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			『代謝・内分泌疾患』をもつ子どもと家族への看護 １型糖尿病	講義・演習
2			『呼吸器疾患』をもつ子どもと家族への看護 気管支喘息	講義・演習
3			『循環器疾患』をもつ子どもと家族の看護 先天性心疾患	講義・演習
4			『腎・泌尿器疾患』をもつ子どもと家族への看護 ネフローゼ症候群	講義・演習
5			『消化器疾患』をもつ子どもと家族への看護 腸重積	講義・演習
6			『アレルギー疾患』をもつ子どもと家族への看護 食物アレルギー	講義・演習
7			『先天的な健康問題』をもつ子どもと家族への看護 ダウン症	講義・演習
8			『川崎病』の子どもと家族への看護 PDCA アセスメント（情報整理・分析）、問題の明確化（全体像把握）、計画	講義・演習
9				
10				
11				
12			事例で予測される看護ケアを考えて実践する 実施、評価	演習
13				
14			小児看護に必要な臨床技術 子どもの健康状態、発達段階に合わせた看護技術	演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	疾病と治療Ⅵ（小児に特有な病態）、小児看護学Ⅰ・Ⅱの学習を復習することで理解を深めることができる。 図書室の文献や雑誌を活用し、自ら学習を深めることを期待する。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 ナーシング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術 ナーシング・グラフィカ小児看護学③小児の疾患と看護	■筆記試験（ 80%） ■レポート（ 20%） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	この単元の学びが深まると小児看護学実習が興味深くなると思います。小児看護は子どもの発達に合わせて関わることが必要です。この単元で対象の小児のことを考えていきましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	小児看護学Ⅳ （多職種連携と倫理的課題）	2年次	1単位 15時間	専任教員 外部講師

目的	小児看護における課題を理解する。
目標	1.小児の健康を支えている現場に注目し、様々な職種の講師から現場の声を聴き、多職種連携について説明できる。 2.小児看護における倫理観を深める。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			子どもの健康を支える現場から① 保健行政　保健師	講義
2			子どもの健康を支える現場から② 児童相談所	講義
3			子どもの健康を支える現場から③ 在宅医療　看護師	講義
4			子どもの健康を支える現場から④ 保育士	講義
5			子どもの健康を支える現場から⑤ 子育て支援	講義
6			子どもの健康を支える現場から⑥ 認定看護師　小児救急看護師	講義
7			子どもに携わる看護師として、倫理的課題を検討する 看護場面での倫理的課題	講義・演習
8			子どもに携わる看護師として、倫理的課題を検討する グループの誓い　発表	演習

予習・復習	疾病と治療Ⅵ（小児に特有な病態）、小児看護学Ⅰ～Ⅲの学習を基盤に考えていく。 図書室の文献等活用しながら、自ら学ぶことを期待している。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 ナーシング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術 ナーシング・グラフィカ小児看護学③小児の疾患と看護	□筆記試験（　　%）　■レポート（　100%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　0%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	実習グループでのグループワークを行う。 グループワークに参加できないと履修が難しい。
備考 （メッセージ）	小児に携わる職種の一つである看護職として、自分の倫理観を育んでください。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	小児看護学実習	2年次	2単位 70時間	専任教員

目的	成長発達し続ける子どもとその家族を理解し、最善の利益を目指した看護実践能力を養う。
目標	1.子どもの成長・発達段階の特徴、基本的生活習慣を理解し、必要な援助が実践できる。 2.子どもの安全管理における責任を自覚し、感染予防・事故予防が実践できる。 3.健康障害をもつ子どもと家族の特徴を理解し、成長・発達段階、健康状況に応じた援助を実践し、臨床判断能力を養うことができる。 4.子どもと家族をとりまく保健・医療・福祉の多職種連携・協働の中での看護師の役割が理解できる。 5.子どもの権利の擁護者（アドボケーター）としての役割を経験し、アドボケーターとしての自己の課題を明らかにできる。

授業計画

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法 ①地域実習
保育所・子育て支援センター・障害児施設にて子どたちとかかわる。
②小児病棟実習
原則的には入院している小児を受け持ち、看護実践する。
ただし受け持ちが不可能であれば、外来にて家族や子どもにかかわる。

実習期間 2週間

実習施設 ①保育所、子育て支援センター、障害児施設
②上尾中央総合病院

予習・復習	疾病と治療Ⅵ（小児に特有な病態）、小児看護学Ⅰ～Ⅳの復習をしてのぞみましょう。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
指定はなし。必要と思われるものを使用してください。	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	体調管理をしっかりして、2週間の実習にのぞんでください。
備考 （メッセージ）	子どもたちの素直な反応は実習でしか味わえません。 2週間を通して、健康な子ども・疾患を持った子ども・障がいを持ちながら地域で生活する子どもなど、様々な場にいる子どもたちと共に過ごして看護学生として子どもと家族の理解を深めて下さい。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

６）母性看護学

母性看護の対象は、妊産褥婦とその子ども、将来子どもを産み育てる女性、過去においてその役目を果たした女性のみならず、生涯を通じての性と生殖に関する健康を守るという観点から、パートナーとしての男性や家族、その家族が生活する地域社会をも含む。そして、対象者の生命や生活を支えつつ、親と子が家族になっていくプロセスを支えるという使命がある。対象者を尊重し、母性や父性、新しい役割、他者への愛着、親と子の相互作用等に関心を寄せ、対象者の持つ力や強みに焦点をあて、対象者自身の持てる力を発揮できるように支援することが求められる。そのため講義・演習・実習で臨床判断能力を養うと共に、多職種連携について学習する。

母性看護学Ⅰでは、いのちを育む土台となるリプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）について学習する。リプロダクティブヘルスに関する概念・動向・倫理・法や施策と支援等、母性看護の基盤となる概念について、また生殖に関する生理や健康問題と看護について学習する。

母性看護学Ⅱでは、妊娠期の生理的変化や健康維持のためのセルフマネジメント、出産と子育ての準備のための看護、妊娠期の異常について学習する。また、分娩の生理や産婦と胎児のアセスメントと看護、分娩期の異常について学習する。

母性看護学Ⅲでは、産褥期の生理的変化や褥婦および家族に対する援助について、母乳育児と看護、産褥期の異常について学習する。また、新生児の生理的特徴およびアセスメントの方法、新生児期のケアについて学習する。

母性看護学Ⅳでは、母子の事例を用い母性看護における看護過程の特徴と展開方法を学習する。周産期のアセスメント項目に必要な視点や母子と家族のアセスメントについて学習し、正常に経過しているのかを判断する。また看護の方向性を見いだし、保健指導の計画・実施・評価を学習する。

母性看護学実習では、母性看護学で学んだ理論や方法を統合し、周産期にある対象を受け持ち、看護過程を展開する。受け持ち母子とその家族の全体像を把握し、看護の実践とその評価を学習する。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	母性看護学Ⅰ （概論）	1年次	1単位 30時間	専任教員

目的	いのちを育む土台となるリプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）について理解する。
目標	1.母性看護の基盤となる概念について理解できる。 2.リプロダクティブヘルスに関する概念・動向・倫理・法や施策と支援について理解できる。 3.生殖における生理、健康問題と看護について理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			母性看護の中心概念 母親になること・愛着理論・ボンディング・家族の発達・女性を中心としたケア	講義
2			リプロダクティブヘルスに関する概念① リプロダクティブヘルス/ライツ・ヘルスプロモーション	講義
3			リプロダクティブヘルスに関する概念② セクシュアリティとジェンダー　ヒトの発生・性分化のメカニズム	講義
4			リプロダクティブヘルスに関する動向 出生・死亡に関する統計　子育て支援に関する制度・施策（多職種連携）	講義
5			リプロダクティブヘルスに関する法律 子どもと女性の保護に関する法律・女性の就労に関する法律	講義
6			生殖に関する生理 第二次性徴・性周期・妊娠のメカニズム・性行動、性反応	講義
7			生殖における健康問題と看護 月経異常・性感染症・性教育	講義
8			不妊症 不妊の原因と治療、不妊治療を受けているカップルへの支援	講義・演習
9			リプロダクティブヘルス/ライツ 発展学習	講義
10			リプロダクティブヘルス/ライツ 発展学習	講義
11			加齢とホルモンの変化 更年期女性/老年期女性の特徴・健康問題と看護	講義
12			リプロダクティブヘルスに関する倫理 母性看護実践における倫理的・法的：社会的課題	講義
13			流産・死産後の女性と家族への看護 ペリネイタルロスを体験した母親や家族の悲嘆・ケアニーズ	講義
14			特殊なニーズをもつ妊産婦と家族への支援 外国人妊産婦への支援・災害時の妊産婦への支援	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	教科書に目を通し、概要を把握する。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護の実践 ＜関連科目＞発達とライフステージ	■筆記試験（　70%）　■レポート（　16%） □実技試験（　　%）　■授業参加状況（　14%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	授業内容の理解には、予習・復習は必須です。 レポート課題に対しては、探究心を持って取り組むこと。（詳細は授業中に提示します。）
備考 （メッセージ）	自分のことや身近なことから発想して、現在の様々な問題を考えていきましょう。 活発に意見交換できることを楽しみにしています。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	母性看護学Ⅱ （妊娠期・分娩期の看護）	2年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	妊娠期・分娩期の正常と異常、看護について理解する。
目標	1.妊娠期の生理的変化を学び、妊婦と胎児の健康状態を分析できる。また、妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント及び出産と子育ての準備のための看護について理解できる。 2.妊娠期の異常と看護について理解できる。 3.分娩の生理を学び、産婦と胎児の健康状態を分析できる。また、産婦のニーズと看護について理解できる。 4.分娩期の異常と看護について理解できる。 5.妊婦・産婦の看護にかかわる技術を習得できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			妊婦の生理① 妊娠に関連する定義・妊娠の成立・胎児の成長	講義
2			妊婦の生理② 妊娠に伴う母体の変化・マイナートラブル・心理社会的変化と看護	講義
3			妊婦と胎児のアセスメント 妊婦健康診査で行われるアセスメント	講義
4			妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント 妊婦のセルフマネジメント・出産と子育ての準備のための看護	講義
5			妊娠期の異常① 妊娠悪阻・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病・妊娠性貧血	講義
6			妊娠期の異常② 異所性妊娠・妊娠維持期間の異常・多胎・合併症を有する妊娠・感染症	講義
7			妊婦の看護にかかわる技術 妊婦のヘルスアセスメント・NST（ノンストレステスト）・日常生活動作	演習
8			分娩の生理 分娩に関する定義・分娩の三要素・分娩の経過	講義
9			産婦と胎児のアセスメント 分娩各期のアセスメント	講義
10			産婦のニーズと看護、産婦と家族の心理 基本的ニーズ・産痛緩和、母性意識の発達・出産体験の想起	講義
11			分娩期の異常① 児頭骨盤不均衡・微弱陣痛・胎位の異常・前置胎盤・常位胎盤早期剥離	講義
12			分娩期の異常② 前期破水・胎児機能不全・弛緩出血・産科DIC	講義
13			分娩期の異常③ 分娩誘発・分娩促進・帝王切開	講義
14			産婦の看護にかかわる技術 胎児の健康状態の観察・分娩進行状況の観察・産痛緩和のケア	演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	教科書に目を通し、概要を把握する。 ノートや授業資料を整理し、重要事項は各自ポケットサイズのノートにまとめておくと良い。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護の実践 ナーシング・グラフィカ母性看護学③母性看護技術	■筆記試験（　80%）　■レポート（　20%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	レポートは、妊娠カレンダーと技術演習の際のワークブックでの評価となります。
備考 （メッセージ）	周産期の知識・技術は、母性看護学実習においても実際に活用します。しっかりと学習し、実習につなげていきましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	母性看護学Ⅲ （産褥期・新生児期の看護）	2年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	産褥期・新生児期の正常と異常、看護について理解する。
目標	1. 産褥期の身体的・心理的変化を理解し、褥婦の健康状態を分析できる。褥婦および家族に対するケアについて理解できる。 2. 産褥期の異常と看護について理解できる。 3. 新生児の生理的特徴を理解し、新生児の健康状態を分析できる。新生児期のケアについて理解できる。 4. 新生児期の異常と看護について理解できる。 5. 褥婦および新生児の看護にかかわる技術を習得できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			産褥の生理 全身の変化・生殖器の変化・褥婦と家族の心理・社会的変化	講義
2			褥婦のアセスメントと看護 褥婦のアセスメント（全身状態・乳房の状態・子宮復古・心理社会的状態）	講義
3			褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護/母親になることへの看護 産褥経過の判断の視点・褥婦の日常生活とセルフケア・親役割獲得を促すケア	講義
4			母乳育児と看護① 母乳育児の特性・乳房の構造と機能・乳汁分泌メカニズム	講義
5			母乳育児と看護② 新生児の生理機能と乳汁分泌メカニズムに基づいた母乳育児支援	講義
6			産褥期の異常 出血・感染症・下部尿路機能障害・乳房のトラブル・産褥精神障害	講義
7			褥婦の看護にかかわる技術 褥婦のヘルスアセスメント（子宮復古・悪露・授乳姿勢と吸着）	演習
8			新生児の生理 新生児の生理的特徴	講義
9			新生児のアセスメント 成熟度の評価・フィジカルアセスメント・スクリーニング検査・行動の評価	講義
10			新生児期のケア 出生直後・出生後24時間以内・24時間以降から退院に向けたケア	講義
11			新生児期の異常① 呼吸循環代謝の適応不全・体温調整の異常・消化器系の異常・分娩期のストレス	講義
12			新生児期の異常② 母体疾患と新生児の異常・早産児・低出生体重児・先天異常がある新生児	講義
13			新生児の看護にかかわる技術 出生直後の評価・新生児の計測・全身の観察・衣類の交換・おむつ交換 抱き方と寝かせ方・新生児の皮膚の清潔法・排気	演習
14				
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	教科書に目を通し、概要を把握する。 ノートや授業資料を整理し、重要事項は各自ポケットサイズのノートにまとめておくと良い。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護の実践 ナーシング・グラフィカ母性看護学③母性看護技術	■筆記試験（ 80%） ■レポート（ 20%） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	レポートは、技術演習の際のワークブックでの評価となります。
備考 （メッセージ）	周産期の知識・技術は、母性看護学実習においても実際に活用します。しっかりと学習し、実習につなげていきましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	母性看護学Ⅳ （事例を用いた看護）	2年次	1単位 15時間	専任教員

目的	母子の事例を用い、母性看護における看護過程の特徴と展開方法を理解する。
目標	1.周産期のアセスメント項目に必要な視点について理解し、必要な情報を収集できる。 2.母子と家族の健康状態を分析し、正常に経過しているのかを判断できる。 3.母子と家族に対する看護の方向性を見いだし、保健指導を計画・実施・評価できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			事例に基づいた看護過程の展開① PDCA・ウェルネス・事例紹介	講義
2			事例に基づいた看護過程の展開② 情報の整理・分析：妊娠期のアセスメント	講義・演習
3			事例に基づいた看護過程の展開③ 情報の整理・分析：分娩期のアセスメント	講義・演習
4			事例に基づいた看護過程の展開④ 情報の整理・分析：産褥1日目の褥婦のアセスメント	講義・演習
5			事例に基づいた看護過程の展開⑤ 情報の整理・分析：生後1日目の新生児のアセスメント	講義・演習
6			事例に基づいた看護過程の展開⑥ 情報の整理・分析：産褥3日目の褥婦と生後3日目の新生児のアセスメント	講義・演習
7			事例に基づいた看護過程の展開⑦ 全体像	講義・演習
8			事例に基づいた看護過程の展開⑧ 保健指導の計画と発表	演習

予習・復習	母性看護学Ⅰ～Ⅲの復習をして臨むこと。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護の実践 ナーシング・グラフィカ母性看護学③母性看護技術	□筆記試験（　　%）　■レポート（　75%） □実技試験（　　%）　■授業参加状況（　25%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による

履修上の注意	母性看護学では、ウェルネス志向の考え方を取り入れた看護過程の展開について学びます。 看護過程の講義後には、毎回、課題を出題します。
備考 （メッセージ）	これまでに学習した周産期の知識を活用し、事例の母子の健康状態をアセスメントしていきます。また退院後の生活をイメージし、保健指導を計画・実施・評価します。積極的に学んでいきましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	母性看護学実習	2年次	2単位 70時間	専任教員

目的	周産期にある対象とその家族に応じた看護実践能力を養う。
目標	1.妊娠期の経過を理解し、個々に応じた適切な看護について考えることができる。 2.分娩の経過を理解し、個々に応じた適切な看護を行うことができる。 3.周産期の実習を通し、生命について自らの考えを深めることができる。 4.産褥期の経過を理解し、母子及び家族への看護を実践できる。 5.新生児の生理的特徴を理解し、母体外生活への適応にむけて援助できる。 6.産婦人科外来の特殊性を理解できる。 7.母性看護の対象を取り巻く保健・医療の連携、及び継続看護について考えることができる。

授業計画

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法 妊娠期・分娩期実習：妊婦健康診査や妊娠期の保健指導、分娩期の看護を見学する。
産褥期・新生児期実習：1組の母子を受け持ち、情報収集・分析解釈・全体像の把握を行い
看護計画、実施、評価、修正の一連のプロセスを展開し、看護実践能力を身につける。

実習期間 2週間

実習施設　上尾中央総合病院

予習・復習	母性看護学Ⅰ～Ⅳの復習をして臨むこと。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
テキストは特に指定しない。学習に必要なあらゆる分野の教科書を活用する。	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	看護の対象である女性および妊・産・褥婦、新生児とその家族の人権と生命の尊厳を保ち、 プライバシーに配慮した態度をとること。
備考 （メッセージ）	周産期の看護の実際を実習にて体験できる機会となります。しっかりと事前学習を行い、母性看護学における特徴（ウエルネス、継続看護や家族看護、多職種連携など）についても学びを広げていきましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

７）精神看護学

看護の対象は、学校、家庭、地域社会、施設で生活しているあらゆる発達段階の人々である。その対象を理解し、精神的健康を保持・増進し精神の健康障害からの回復を促進する援助に必要な知識、技術を獲得する。

精神看護学Ⅰでは、こころの構造について理解し、各発達段階の特徴をふまえた上で精神看護の基本概念、こころの発達と健康について学習する。

精神看護学Ⅱでは、精神看護の歴史・法の変遷を理解し精神障害者の人権尊重と精神看護を展開する看護師の倫理観を養い、看護職の果たす役割について学習する。また、地域保健活動によるこころの健康管理の実際を学ぶことにより、精神障害者の現状の理解を深め、入院から社会復帰・社会参加について学習する。

精神看護学Ⅲでは、対象の抱える問題や社会復帰への過程・支援について学習する。また、精神障害者の状態・症状に対する看護、治療を踏まえ、対象のこころや生活に及ぼす影響を理解し、対象の“持っている力”をのばしていくかかわりについて事例を用い学習する。

精神看護学Ⅳでは、依存症の看護、治療を学ぶ。そこから対象の抱える問題や社会復帰への過程・支援について学習する。

精神看護学実習では、病棟実習、地域実習を通じ、精神障害を抱える対象とその家族を理解し、看護に必要な知識・技術・態度を学習する。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	精神看護学Ⅰ （概論）	1年次	1単位 15時間	外部講師

目的	人格の発達過程、人の心理・行動の特性を理解し、健康な生き方とは何かについて理解する。
目標	1.精神看護の基本概念が分かり、こころの健康について理解できる。 2.生活場面とライフサイクルにおける精神保健と危機的状況を学び、その介入方法が理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			こころの発達とこころの健康① こころの健康とは、障害のとらえ方、社会の変化とメンタルヘルス	講義
2			こころの発達とこころの健康② 人のこころの様々な理解、こころと環境	講義
3			こころの発達とこころの健康③ 人格の発達と情緒体験、乳幼児期～学童期の発達課題	講義
4			こころの発達とこころの健康④ 人生各期の発達課題、思春期～老年期の発達課題	講義
5			こころの発達とこころの健康⑤ 現代社会とこころ	講義
6			こころの発達とこころの健康⑥ ストレスに対する身体的反応・心身症	講義
7			こころの発達とこころの健康⑦ こころの健康に関する支援	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	「心理学」「発達とライフステージ」「人間関係論」の復習をし授業に臨むこと。 講義後は、資料やテキスト等を整理し復習するとよい。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ 精神看護学①情緒発達と精神看護の基本	■筆記試験（100%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	精神看護学Ⅱ （精神障害者の理解）	2年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	精神看護の対象となる人とその家族のこころや生活に及ぼす影響と看護実践の基本について理解する。
目標	1.精神保健福祉の歴史と変遷について知り、関連する法律について理解できる。 2.精神障害を抱えながら生活する人とその家族について理解できる。 3.地域社会、施設で生活する人々の精神の健康管理の実際を理解できる。 4.精神障害者の権利擁護における看護の役割が理解できる。 5.精神障害者の社会復帰、社会参加について理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			精神保健福祉医療の歴史と変遷① 古代から中世、近代の精神医学	講義
2			精神保健福祉医療の歴史と変遷② 20世紀の精神医療、日本における精神医療	講義
3			精神保健福祉医療の歴史と変遷③ 精神保健福祉をめぐる法律	講義
4			こころの健康管理① 家庭、地域社会・施設で生活する人々の健康管理の実際	講義
5			こころの健康管理② 企業で働く人々の健康管理	講義
6			こころの健康管理③ 精神障害者と災害	講義
7			精神障害者を理解するための看護の基本① 家族とその支援	講義
8			精神障害者を理解するための看護の基本② 家族とその支援	講義
9			精神障害者を理解するための看護の基本③ 看護の倫理と人権擁護	講義
10			精神障害者を理解するための看護の基本④ ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割	講義
11			精神障害者を理解するための看護の基本⑤ コンサルテーションとリエゾン・自己決定権・スーパービジョン	講義
12			精神障害者を理解するための看護の基本⑥ 援助におけるアセスメントの視点、治療の場の人間関係、治療的かかわり	講義
13			精神障害者を理解するための看護の基本⑦ 精神科リハビリテーションの考え方	講義
14			精神障害者を理解するための看護の基本⑧ 精神科リハビリテーションの考え方	講義
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	「社会福祉と社会保障システム」「疾病と治療Ⅴ（精神病態）」「精神看護学Ⅰ」を復習する。また、講義は随時その内容をテキストと照らし合わせ整理し、復習するとよい。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 ナーシング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践	■筆記試験（95%）　■レポート（　5 %） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	受講後には学びや感想を記入することがあるため、感じたこと考えたことを講義内に記録しておく。
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	精神看護学Ⅲ （治療・事例を用いた看護）	2年次	1単位 30時間	専任教員

目的	精神障害者の症状や経過、治療を踏まえ、対象のこころや生活に及ぼす影響を考え、必要な援助や自立に向けた支援について具体的に理解する。
目標	1.精神障害者の入院から退院に向けた治療的アプローチ・社会復帰活動が理解できる。 2.精神障害を抱えながら生活する人とその家族の状態の合わせた看護援助プロセスを理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			精神保健活動① 地域精神保健活動における社会資源の活用（多職種連携）	講義
2			精神保健活動② 在宅医療と連携（多職種連携）	講義
3			入院環境と治療的アプローチ① 治療の場としての精神科病棟・治療的環境を整える	講義
4			入院環境と治療的アプローチ② 日常生活行動の援助	講義
5			入院環境と治療的アプローチ③ 服薬治療にかかわる援助	講義
6			パーソナリティー障害患者の看護 衝動行為　強迫性障害　看護の視点	講義
7			うつ病患者の看護 うつ状態・躁状態　抑うつ障害と双極性障害の看護の視点	講義
8			統合失調症患者の看護 陽性症状・陰性症状 病期(急性期・回復期・慢性期）における看護の視点	講義
9			看護過程① ヘンダーソンの情報収集モデルをもちいた情報の整理とアセスメント	講義・演習
10			看護過程② ヘンダーソンの情報収集モデルをもちいた情報の整理とアセスメント	講義・演習
11			看護過程③ ヘンダーソンの情報収集モデルをもちいた情報の整理とアセスメント	講義・演習
12			看護過程④ ヘンダーソンの情報収集モデルをもちいた情報の整理とアセスメント	講義・演習
13			看護過程⑤ ヘンダーソンの情報収集モデルをもちいた情報の整理とアセスメント 全体像関連図	講義・演習
14			看護過程⑥ 全体像関連図 行動計画　毎日の記録	講義・演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	「疾病と治療Ⅴ（精神病態）」や「精神看護学Ⅰ」「精神看護学Ⅱ」の復習をする。また、8～14回は課題があるため各自で取り組み講義に臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 ナーシング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践 ナーシング・グラフィカ人体と構造と機能①解剖生理学 ナーシイング・グラフィカ疾病のなりたち②臨床薬理学	■筆記試験（ 50%）　■レポート（ 50 %） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	受講後には学びや感想を記入することがあるため、感じたこと考えたことを講義内に記録しておく。
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	精神看護学Ⅳ （嗜好と依存の看護）	2年次	1単位 15時間	専任教員 外部講師

目的	依存症患者の症状や経過、治療を踏まえ、対象のこころや生活に及ぼす影響について考え、必要な援助や自立に向けた支援について理解する。
目標	1.救急医療現場での精神科的対応と看護について理解できる。 2.依存状態にある対象の抱える問題や社会復帰への過程を学び、支援について理解できる。 3.治療を受ける対象を倫理的視点から理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			依存のとらえ方、依存、逸脱行動状態にある対象者への援助	講義
2			アルコール依存状態にある対象者への看護	講義
3			薬物依存状態にある対象者への看護	講義
4			アルコホーリクス・アノニマスの活動の実際	講義
5			救急医療現場における患者支援	講義
6			保護室・隔離室使用時の看護	講義
7			身体拘束時の看護	演習
8			単位認定試験	筆記試験 レポート

予習・復習	授業前に、精神看護に関する法律を復習するとよい。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 ナーシング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践	■筆記試験（95%）　■レポート（5%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	受講後には学びや感想を記入することがあるため、感じたこと考えたことを講義内に記録しておく。
備考 （メッセージ）	専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	精神看護学実習	3年次	2単位 80時間	専任教員

目的	精神看護の対象とその家族に応じた看護実践能力を養う。
目標	1.精神看護の対象となる人を理解できる。 2.対象の日常生活行動に基づいたかかわりを通して必要な援助が実践できる。 3.自己の内面の変化に気付き、自己洞察できる。 4.精神障害者をとりまく地域精神医療と社会復帰活動の役割と機能が理解できる。

授業計画

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法 病棟実習

①患者を1名受け持ち、看護理論を用い情報収集・情報の整理をする。
＊患者との関係をプロセスレコードに記録し、場面を振り返る。
②それぞれの項目についてアセスメントし、患者を取り巻く事柄について考えを深める。
③受持ち患者の全体像関連図を表し、問題点に対する看護の方向性を明らかにする。
④指導のもとに、対象のもつ看護問題を明確化、看護を計画、実施、評価、修正し、プロセスを展開する。
＊実習メンバー（6～7名）、実習施設名、担当教員については、第1回オリエンテーションで説明する。

地域実習

＊病棟実習と併せ目標４をねらいとする内容である。詳細は、精神地域実習オリエンテーションにおいて説明する。

実習期間 3週間

予習・復習	精神看護学Ⅰ～Ⅳの復習をして臨む。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
テキストは特に指定しない。学習に必要なあらゆる分野の教科書を活用する。	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	実習要綱は熟読し、実習オリエンテーションには必ず出席する。事前のオリエンテーションの際に伝える「事前学習」は指定の期日に提出する。地域実習の場所などについて、各自事前に確認しておく。
備考 （メッセージ）	レクリエーションや個別の作業などで施設に持ち込む物品（折り紙・色鉛筆・マジック・色画用紙・コピー用紙など）がある場合、事前に相談してください。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

８）看護の統合と実践

基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した内容を領域横断しながら臨床判断のプロセスを踏み、より臨床実践に近い形で学習する。

看護の統合と実践Ⅰでは、医療安全の基本となる知識や考え方を深め、自分も事故を起こす存在であることを認識し、職業感染事例を通して危険認識力と危機回避のための判断および事故予防対策を検討する。これらを通して、臨床実習に向けて医療安全や倫理的判断と配慮の必要性について考え安全の意識を高める学習をする。

看護の統合と実践Ⅱでは、災害時の特徴を理解した上で、看護の役割・看護活動について学ぶ。被災者の心理状態にも配慮できるよう理解を深めながら災害時に必要な看護技術の習得をする。療養上の世話における事故事例から自己分析および事故予防対策を学習する。国際看護では、国際化する社会の中で広い視野に基づいた看護師の役割や諸外国との協働を知り、保健、看護活動についての理解を深められるよう学習する。

看護の統合と実践Ⅲでは、組織の中での看護管理と看護管理に必要なスキルを学ぶ。病院における看護組織や組織の一員としての役割を理解し、看護職の専門性、より良いケアを実践するための管理の機能について考え、これらの学びをキャリアビジョンにつなげていくための学習をする。

看護の統合と実践Ⅳでは、看護研究の基本的知識を基に知りたいことを導き出すプロセスを経験することで探求の必要性を学習する。

看護の統合と実践Ⅴでは、既習の学習を確認しながら看護実践に対応しうる能力を養うため、診療の補助における事故事例から自己分析および事故予防対策を学習する。また、BLS の知識を基に高度な蘇生技術を習得する。

看護の統合と実践Ⅵでは、各領域で学習したことを応用し、看護実践に対応しうる能力を養うための学習をする。

看護の統合と実践実習では、３年間の学習で身についた能力を活用し臨床現場で複数の対象者を受け持ち、ケアの優先度を考えながら看護技術を提供する。また、チーム医療及び、多職種との連携、医療安全、看護管理の知識を持ち、臨床の場での看護実践を通して、看護師の役割を学習する。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	看護の統合と実践Ⅰ （医療安全）	2年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	医療安全の意味と重要性を理解する。
目標	1. 医療の安全の基本的な知識を説明できる。 2. 看護業務の範囲と責任について説明できる。 3. ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策について説明できる。 4. 医療安全の視点に基づいた日常生活援助を安全・安楽に実施するための知識・技術が習得できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			医療安全と看護の理念 　医療安全の意味と重要性、看護職の法的規程と医療安全	講義
2			医療安全への取り組みと医療の質の評価	講義
3			事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	講義
4			チームで取り組むと安全文化の醸成	講義
5			看護における医療事故と安全対策	講義
6			在宅における医療事故と安全対策	講義
7			医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	講義
8			職業感染に対する予防策①	講義・演習
9			職業感染に対する予防策②	演習
10				
11			職業感染に対する予防策③	講義・演習
12			事例を用いた日常生活援助の展開①	講義・演習
13			事例を用いた日常生活援助の展開②	講義・演習
14			事例を用いた日常生活援助の展開③	講義・演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 ・ﾚﾎﾟｰﾄ 講義

予習・復習	テキストには目を通し、概要を把握したうえで授業に臨むこと。関連する科目は、ようこそ看護の世界へ、基礎看護学など復習しておくのが望ましい。 ニュース・インターネットなどで、病院・施設におけるインシデント・アクシデントに関する情報に触れておくこと。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践②医療安全 ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護概論 ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術	■筆記試験（　90%）　■レポート（　10%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	9～10回目はシミュレーション演習を実施します。詳細は授業で説明します。 12回目～14回目の詳細についてはその都度お知らせします。
備考 （メッセージ）	理論と実践を結び付けていく科目です。 臨地実習で医療安全で経験したことを意識しながら取り組みましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	看護の統合と実践Ⅱ （災害看護・医療安全・国際看護）	3年次	1単位 30時間	専任教員 外部講師

目的	1.災害時の看護の役割、看護活動について理解する。 2.医療事故の分析・予防策について理解する。 3.グローバル社会の中で、広い視野に基づいた看護師の役割について理解する。
目標	1.災害における看護のあり方について考え、トリアージについて説明できる。 2.災害に必要な看護（止血・包帯法）技術を習得できる。 3.医療事故事例の原因を分析し、その予防策について説明できる。 4.諸外国との協働を知り、日本の医療の課題について説明できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			災害看護とは・災害の種類と災害サイクル	講義
2			危機管理 減災・防災マネジメント	講義
3			被災者と支援者の心理の理解と援助	講義
4			災害初期から中長期における看護活動 初動時・医療救護所・避難所の看護活動	講義・演習
5			災害時に必要な医療・看護技術① 体系的対応の基本原則・トリアージ	演習
6				
7			災害時に必要な医療・看護技術② 応急処置：止血・包帯法	演習
8			医療事故事例分析① 療養上の世話における事故：転倒	講義・演習
9			医療事故事例分析② 療養上の世話における事故：転倒	演習
10				
11			医療事故事例分析③ 療養上の世話における事故：転倒	講義
12			国際看護とは	講義・演習
13			日本における国際看護・海外における災害看護と国際看護活動	講義・演習
14			グローバルな看護の実際 日本と諸外国の看護制度、海外における看護の実際	演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 ・ﾚﾎﾟｰﾄ 講義

予習・復習	テキストには目を通し、概要を把握したうえで授業に臨むこと。関連する科目は、ようこそ看護の世界へ、文化人類学、領域別看護学の災害時の看護の講義など。復習しておくのが望ましい。 ニュース・インターネットなどで、世界の情勢、人口や疾病動態など気になる情報に触れておくこと。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③災害看護 ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践②医療安全 ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護概論 ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術	■筆記試験（ 65%） ■レポート（ 35%） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	災害看護の演習の詳細は授業で説明します。準備についても別途お知らせいたします。 9～10回目は医療安全シミュレーション演習を実施します。詳細は授業で説明します。 国際看護演習に向けては、別途オリエンテーションを行います。
備考 （メッセージ）	災害看護について、演習形式で展開する授業を通して学びを深めていきましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	看護の統合と実践Ⅲ （看護管理）	3年次	1単位 15時間	専任教員 外部講師

目的	組織の中での看護管理と看護管理に必要なスキルを理解する。
目標	1.看護管理の基本的な考え方が説明できる。 2.看護職の定義や法制度について理解し、看護職の専門性について理解できる。 3.チーム医療・多職種との協働の中での看護師の役割が理解できる。 4.よりよいケアを行っていくための管理の機能について理解できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			看護観の基盤となる知識 看護管理のプロセス	講義
2			看護の仕事とその管理① 看護管理で重要なこと	講義
3			看護の仕事とその管理② 人を育て活かす、モノの管理、情報の管理、コストの管理、看護提供システム	講義
4			看護の質向上 看護管理と倫理、医療・看護の質と評価	講義
5			看護管理に求められる能力	講義
6			看護職とキャリア 社会人になる、看護の教育体系、看護職としてのキャリア	講義
7			看護と経営 医療と経済、病院経営と看護管理	講義
8			単位認定試験	筆記試験

予習・復習	テキストに目を通し、概要を把握したうえで授業に臨むこと。関連する科目は、社会福祉と社会保障システム、看護学概論など、復習しておくのが望ましい。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践①看護管理 ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論 ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術	■筆記試験（ 85%） ■レポート（ 15%） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	
備考 （メッセージ）	臨地実習で看護管理やリーダーシップ、メンバーシップについて経験したことをもとに学びを深めていきましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	看護の統合と実践Ⅳ （看護の探求）	3年次	1単位 30時間	専任教員

目的	看護の探求をするための基本的知識と必要性を理解する。
目標	1. 看護における研究の意義と方法が説明できる。 2. 研究の一連のプロセスを通じ科学的思考と態度をもつことができる。 3. 主体的学習能力を身につけ看護の発展や質の向上について考える。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			看護の探求をすることとは	講義
2			看護研究の方法① 　量的なアプローチの研究デザイン	講義
3			看護研究の方法② 　質的なアプローチの研究デザイン	講義
4			リサーチクエスチョン　文献検討と文献検索	講義
5			研究における倫理的配慮とデータ収集方法、分析方法	講義
6			研究の進め方① 　研究計画書の作成	講義・演習
7			研究の進め方② 　研究計画書の作成	演習
8			論文のまとめ方	講義・演習
9			論文作成	演習
10			論文作成	講義・演習
11			論文作成	演習
12			発表方法	講義・演習
13			発表	演習
14			発表	演習
15			自分の看護の振りと今後の看護の展望	講義・演習

予習・復習	テキストには目を通し、概要を把握したうえで授業に臨むこと。関連する科目は、情報科学など。復習しておくのが望ましい。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ基礎看護学④看護研究	□筆記試験（　　%）　■レポート（ 100%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	卒業時の看護実践力を確認する授業のため、卒業年次に履修することが望ましい。 評価対象レポートについては、初講時に説明します。
備考 （メッセージ）	自分自身の看護実践力を確認し、課題を明らかにしていきましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	看護の統合と実践Ⅴ （医療安全・看護の力を積み重ねる）	3年次	1単位 30時間	専任教員

目的	1. 医療安全の重要性を理解する。 2. 既習の学習を統合し、看護実践能力を養う。
目標	1. 医療事故事例の原因を分析し、その予防策について説明できる。 2. 突然の心停止に対して適切な蘇生を習得できる。 3. 地域で生活する対象に看護を提供するための既習の知識・技術を応用する。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			医療事故事例分析① 診療の補助における事故：誤薬	講義・演習
2			医療事故事例分析② 診療の補助における事故：誤薬	演習
3				
4			医療事故事例分析③ 診療の補助における事故：誤薬	講義・演習
5			ICLSトレーニング	演習
6				
7			看護技術の根底をなすもの①	講義・演習
8			看護技術の根底をなすもの②	講義・演習
9			在宅療養者の特徴や病期に応じた看護の理解①	講義・演習
10			在宅療養者の特徴や病期に応じた看護の理解②	講義・演習
11			在宅療養者の特徴や病期に応じた看護の理解③	講義・演習
12			高齢者の生活を支える看護①	講義・演習
13			高齢者の生活を支える看護②	講義・演習
14			高齢者の生活を支える看護③	講義・演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習では、基礎看護学、地域・在宅看護論、老年看護学の既習学習の確認、国家試験過去問題を解きわからないことを明らかにしておくと良い。1～4回目は医療安全シュミレーション演習を実施します。詳細は授業で説明します。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践②医療安全 ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護概論 ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 基礎看護学、地域・在宅看護論、老年看護学で使用したテキスト・資料	■筆記試験（　80%）　■レポート（　20%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	シミュレーション演習を実施します。詳細は授業で説明します。 ７回目～14回目では、毎回確認テストを行います。
備考 （メッセージ）	知識を積み重ねて増やしていくことを目指しましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	看護の統合と実践Ⅵ （看護の力を積み重ねる）	3年次	1単位 30時間	専任教員

目的	既習の学習を統合し、看護実践能力を養う。
目標	1.さまざまなライフサイクルの対象に看護を提供するための既習の知識・技術を応用できる。

回数	日程	担当	授業内容	方法
1			成人の健康問題に応じた看護①	講義・演習
2			成人の健康問題に応じた看護②	講義・演習
3			成人の健康問題に応じた看護③	講義・演習
4			成人の健康問題に応じた看護④	講義・演習
5			成人の健康問題に応じた看護⑤	講義・演習
6			子どもと家族の健康増進と健全な成長発達を支援する看護①	講義・演習
7			子どもと家族の健康増進と健全な成長発達を支援する看護②	講義・演習
8			子どもと家族の健康増進と健全な成長発達を支援する看護③	講義・演習
9			周産期における看護①	講義・演習
10			周産期における看護②	講義・演習
11			周産期における看護③	講義・演習
12			精神疾患・障害の特徴と看護①	講義・演習
13			精神疾患・障害の特徴と看護②	講義・演習
14			精神疾患・障害の特徴と看護③	講義・演習
15			単位認定試験 まとめ	筆記試験 講義

予習・復習	予習では、成人看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の既習学習の確認、国家試験問題を解きわからないことを明らかにしておくと良い。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
成人看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学で使用したテキスト・資料	■筆記試験（ 100%） □レポート（ %） □実技試験（ %） □授業参加状況（ %） □その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	毎回確認テストを行います。
備考 （メッセージ）	知識を蓄えて頭の中に留めることを目指しましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。

【第一学科令和6年度入学生32期生】

分野	科目名	開講時期	単位	担当者
専門分野	看護の統合と実践実習 （はばたけ看護の世界へ）	3年次	2単位 80時間	専任教員

目的	病院・病棟の実務に即した体験をすることにより、知識・技術・態度を統合して看護実践力を養う。
目標	1.病院・病棟管理、看護管理の実際について理解できる。 2.看護チームのリーダー及びメンバーの役割を理解できる。 3.複数患者の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性が理解できる。 4.病棟の実務に即した体験をすることにより、看護業務全体が理解できる。 5.看護実践の質の向上に向けて、自己の課題を記述することができる。

授業計画

◆詳細は臨地実習要綱参照

実習方法

看護チームのリーダー及びメンバーの業務を見学し、チームの一員としての役割を学ぶ。
実習メンバーで看護チームを作り（病棟チームの一員として）、複数患者（学生2人に患者2名）を受け持つ。
病棟で立案している看護診断を理解した上で看護目標、看護計画、実施、評価、修正の一連のプロセスを展開する。
病棟の実務体験を通して患者の理解に努め、優先順位を考え看護チームで協働して看護実践を行う。
＊実習メンバー（5～6名）、実習病院名、担当教員については、第1回オリエンテーションで説明する。

実習期間 3週間

実習施設 AMG関連病院

予習・復習	実習要綱は熟読し、実習オリエンテーションには必ず出席する。 既習の知識をもとに受け持ち患者を理解し、看護実践を方向づけること。 医療安全、看護管理に関する知識を実践場面と照合し、実践知に発展させていくこと。

テキスト及び参考文献	成績評価の方法・基準
テキストは特に指定しない。 学習に必要なあらゆる分野の教科書を使用する。	□筆記試験（　　%）　□レポート（　　%） □実技試験（　　%）　□授業参加状況（　　%） ■その他（実習要綱に記載する方法・基準による）

履修上の注意	すべての領域別実習を修得したうえで履修することが望ましい。 ルーブリック評価をもとに、到達目標・学習活動を理解したうえで臨むこと。
備考 （メッセージ）	チームリーダー・メンバー実習は日程が限られているため、体調を整えて臨みましょう。 専任教員とは実務経験のある教員を示す。